

OSAKA
MEDICAL
COLLEGE

Vol.123

大阪医科大学学報



特集

**5つの教学改革の成果をもとに
世界有数の医療系大学へ**

大槻 勝紀 学長

研究室訪問

**院内の感染を制御し、地域の感染対策の
レベルアップに貢献する**

感染対策室 室長 浮村 聡 専門教授



Contents

3 特 集
5つの教学改革の成果をもとに
世界有数の医療系大学へ
大槻 勝紀 学長

5 研究室訪問
院内の感染を制御し、地域の感染対策の
レベルアップに貢献する
感染対策室 室長 浮村 聡 専門教授

7 OMC TOPICS
01 学校法人大阪医科薬科大学の2020年度
予算と2019年度決算が承認されました
02 2019年度大阪医科大学附属病院診療等功績顕彰(藤田賞)の表彰
03 2019年度第6回市民公開講座開催報告及び2020年度予定
04 2019年度人権教育特別講演会の開催について
05 2020年度名誉・功労教授称号授与
06 2019年度日本がん看護学会学術奨励賞を受賞
07 大阪医科大学と高知県との基本協定書締結式
08 研究助成金(外部資金)採択報告
09 2019年度がん患者サロン「ひだまり」開催報告
10 2020年度新入生オリエンテーション
11 大阪医科大学さわらぎキャンパス・
クラブハウス改築工事安全祈願祭を開催しました
12 新本館建築工事地鎮祭を開催しました
13 2020年度永年勤続者表彰

10 OMC NEWS

11 2019年度 卒業式 12 2019年度 学位授与

13 病院長就任挨拶 14 新任挨拶

16 競争的資金獲得状況

24 チーム大阪医大の
現場力 Vol.17
産学官連携推進室

25 ご支援の御礼

27 海外留学

29 高槻中・高だより 28 大阪薬大だより

31 寄付金関連報告

33 病院ボランティアグループ
ふれあい 34 水彩画と私

5つの教学改革の成果をもとに世界有数の医療系大学へ

本学では、大槻 勝紀学長のもと 2015 年から全学をあげて「5つの教学改革」に取り組んできました。その大きな成果として、昨年度末には「医師・看護師・保健師・助産師の国家試験合格率 100%」「私立大学等改革総合支援事業の 4 タイプすべてに選定」の 2 つの大きな成果を達成しました。教学改革によって本学はどのように変わってきたのか、それによって得られた成果の意義について、大槻 勝紀学長に伺いました。

大阪医科大学
学長
大槻 勝紀

療人の育成が本学の使命であり、それは本学の目指すべき医師像、看護師像です。国家試験合格は医療人としての第一歩であり、その意味では合格して当然とも言えます。

しかしながら、私たちの学生時代と比較して、分子生物学、遺伝子学や再生医療学など、学ぶべき知識量のはるかに増大しているため、従来のような学習法では国家試験に太刀打ちできません。少しでも気を緩めると、合格率は大きく低下してしまいます。本学においても、2016（平成 28）年度の第 111 回医師国家試験で新卒合格率が 81.5%に落ち込みました。その原因を分析すると、いくつかの課題が浮かび上がりました。

一つは、卒業試験の出題が毎年同じような内容になっていたこと。そこで卒業試験の出題をすべて新しくし、加えてこれまで試験がなかった 3 年生と 5 年生に対して進級試験を導入しました。また、全学生にチューターをつけ、学生生活と学習の実態を把握する学勢調査を実施しました。また年に 2 回、希望する保護者と面談するなど、個々の学生に対して学生生活支援と学習支援を行っています。いわゆる国試予備校的な対策ではなく、自由な学風を尊重した「自学自習」を基本として、個々の学生に向き合ったきめ細かいフォローを充実させています。こうした対策で、2017（平成 29）年度 99.1%、2018（平成 30）年度は 93.7%、そして 2019（令和元）年度 100%と、医師国家試験の合格率は V 字回復となりました。

私立大学等改革総合支援事業の 4 タイプすべてに選定

文部科学省が推進する「私立大学等改革総合支援事業」において、本学は 2019 年度に 4 タイプすべてに選定されました。同事業は、特色・強みの明確化に向けた改革に全学的に取り組む私立大学を重点的に支援するもので、2019 年度の応募は「特色ある教育の展開（タイプ 1）」、「特色ある高度な研究の展開（タイプ 2）」、「地域社会への貢献（タイプ 3）」、「社会実装の推進（タイプ 4）」の 4 タイプに分かれています。652 校の申請校のうち、約半数弱は 4 タイプのうち 1 つに選定されていますが 1～4 のすべてのタイプに選定された大学は本学を含めてわずか 6 校でした。財政的にも外部資金獲得に貢献するとともに、大学として 4 タイプのすべての面で評価されたことに大きな意義があります。

公的研究資金の獲得では、科学研究費補助金（科研費）や日本医療研究開発機構（AMED）の研究資金の獲得にも成果を上げています。科研費は 2011（平成 23）年度と比較すると採択件数で約 2 倍、交付内定額で約 1.5 倍に増加し

ています。これほどの伸びはほとんど例がなく、他大学の学長から「どうしてそれほど獲得できるのか教えてほしい」と、尋ねられるほどです。また、これまでに獲得した AMED の研究費は約 9 億 3000 万円に上り、いくつかの研究者のアイデアが商品化されようとしています。

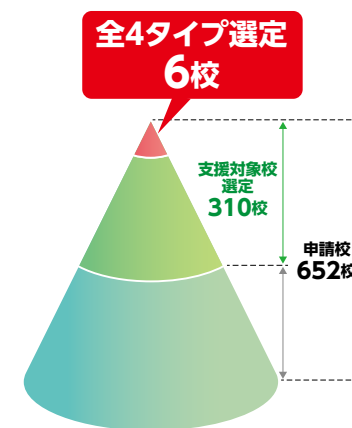
これらは 5 つの教学改革の 1 つとして取り組んできた「Translational Research（基礎から臨床研究の橋渡し）」の教職員の教職協働としての成果であり、本学のステークホルダーすべての方に感謝申し上げます。

リサーチマインドを植え付ける

この他、2019 年 2 月に日本医学教育評価機構（JACME）から医学教育分野別評価（国際認証）に認定され、海外の大学との単位互換ができるようになるなど、Globalization（教育研究のグローバル化）においても大きな成果を上げています。

また、教育面では、卒業後、リサーチマインドを持った医師になるための基礎として、6 年間を通して学生研究のコースを設定したカリキュラムを組み込んでいます。まず 1 年生で実験ノートが完璧に作成できるよう学んだり、TOEFL®の英語検定を受けます。3 年生では研究室に配属されて実験を行い、実験の成果を 4 年生でまとめ、5 年生では研究発表を行う予定です。リサーチマインドを育てることは、国試合格率のアップにはつながりませんが、医師になった時には必ず役に立つものですし、建学の精神を実現するうえで欠かせないものと考えます。

新型コロナウイルスの感染拡大で、オンデマンドの遠隔授業で実習が中断されるなど教育や研究で大きな影響を受けています。これまでの教学改革の成果を活かしてその苦難を乗り越え、そして 2021（令和 3）年 4 月 1 日の大阪医科大学と大阪薬科大学の大学統合に向けて、さらなる改革が進むことを新学長に期待しています。



令和元年度文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」4 タイプすべてに選定



すべての国家試験で合格率 100%

本学は、第 114 回医師国家試験及び第 109 回看護師国家試験、第 106 回保健師国家試験、第 103 回助産師国家試験のすべてにおいて、100%の合格率となりました。看護学部はほぼ毎年のように 100%合格を達成しており、医学部の新卒 100% 合格は 3 回目です。しかも、今回の医師国家試験では既卒者も 100%合格を達成し、新卒・既卒共に 100%は全国国公私立大学医学部 80 校中 3 校のみ（自治医科大・

産業医科大・本学）で、本学創立以来の快挙です。これもひとえに卒業生、既卒者諸君の頑張り、と、医学教育センターをはじめ教育に関わっていただきました教職員の皆さま方のご努力の賜物であり、学長として感謝申し上げます。

本学の吉津度初代理事長は「医育機関の使命は医学教育と医学研究であり、またそれらは実地の医療に活かすことで達成される。」と唱えられました。その建学の精神に則り、学長の就任時に 5 つの教学改革方針を公表し、教学改革を進めてきました。国際性を備え、社会に貢献できる医





院内の感染を制御し、 地域の感染対策の レベルアップに貢献する

今回の
訪問先

感染対策室 室長／専門教授 浮村 聡

—— どのような学生時代でしたか。

大学ではグリークラブに入り、クラブ漬けの毎日でした。たくさんのお客様に来てもらうためにあちこちの大学の合唱部と交流し、1シーズンで60回ほどコンサートを聴きに行っていました。音楽は医学とともに私の人生にとって大きな柱で、大学の管弦楽部とグリークラブの顧問をするほか、高槻市民合唱団の副代表も務めています。附属病院の院内コンサートでも毎年歌っています。

—— 医師としてのスタートは第三内科（循環器）でした。

内科医になることは決めていましたが、第三内科に入局したのは先輩に誘われたからです。附属病院で2年間の研修の後、滋賀県立成人病センター

（現・滋賀県立総合病院）で2年間勤務しました。当時、バルーン（風船）を使って狭くなった冠状動脈を治療するPCI（経皮的冠動脈インターベンション、バルーン療法とも呼ばれる）の黎明期で、滋賀では主にその療法を学び、本学に戻ってきました。

内科専門医、循環器専門医として研鑽を積んでいく中で出会った研究テーマが、心臓の難病である拡張型心筋症（DCM）のウイルス病原説です。ウイルスの遺伝子を電子顕微鏡で解析したり、マウスを使ってウイルスが心筋症を発症させるメカニズムの解明や、どのような薬剤に効果があるかなどの研究です。ウイルスを扱うので、当然感染症の知識や実験スキルが必要になります。そのために感染症専門医

の資格も取りました。また、DCMとウイルスの基礎研究をしていた米国ネブラスカ大学にも留学しました。
—— 感染対策室はどのような役割を果たすのですか。

院内感染の発生予防と発生時への適切な対応、院内の医療従事者に対しての感染対策や感染症診療に関する教育などが、主要な役割となります。特に、私が室長に就任して以降、抗生物質（抗菌薬）が効かない薬剤耐性菌の院内感染が、世界的に大きな問題となりました。そのために、感染対策室の中に感染制御の専門家集団である感染制御チーム（Infection Control Team：ICT）と感染症診療を専門とする抗菌薬適正使用支援チーム（Antimicrobial Stewardship Team：AST）を設置するなど、体制の強化を図ってきました。現在、感染症専門医、感染管理看護師（ICN）、抗菌化学療法認定薬剤師、微生物検査専門の検査技師などの専門家と専従の事務員に加えて、兼務の医師、検査技師、微生物専門家の協力を得て約10名で活動しています。

耐性菌の院内感染は大病院だけでなく地域の病院でも発生しますので、地域との連携も重要です。そこで、大阪医科大学医師会・高槻市医師会・茨木市医師会・摂津市医師会の主要な病院が参加する北摂四医師会感染対策ネットワークを形成し、地域で院内感染が発生した場合は、私たちも保健所と一緒に介入して、耐性菌の遺伝子の解析をするなど、地域の中心となって活動しています。人口約75万の医療圏の地域密着型のネットワークで感染対策のレベルアップのために活動している例は全国的にもあまり例がなく、当室の最大の特徴になっています。

—— これまでにどのような研究活動に取り組んで来られましたか。

2009年に発生した新型インフルエンザで日本では200人余りの方が亡

くなっています。そのうち10数人がインフルエンザによる心筋炎でした。日本循環器学会がその重症化のメカニズムを調査することになり、循環器の専門家で、かつ感染症の専門家でもある私が中心となって日本の症例を調べ英文論文を数編執筆しました。

その後は、耐性菌や感染制御についての研究を中心に取り組んでいます。感染管理看護師、薬剤師、検査技師などがそれぞれの専門から研究テーマを発案し、実験、調査で得られたエビデンスを論文にまとめて発信しています。
—— 新型コロナウイルス感染症の対応で感じられていることは何でしょうか。

本学では附属病院とさまざまな教室が協力して“**One Team**”で新型コロナウイルス感染症の検査・臨床に対応しています。臨床を振り返って研究にまとめることが私たちの使命です。本学のPCR検査ではウイルスの量も計っていますので、それを活かした新しいエビデンスも提供できると考えています。

日本赤十字社では新型コロナウイルスには感染症として3つの顔があり、それを知ることが負のスパイラルを断ち切るになると提言しています。3つの顔とは、1つは「病気そのもの」、2つは「不安や恐れ」、3つは「嫌悪・偏見・差別」です。私も感染した人や医療従事者に対する偏見や差別をなくさなければ、新型コロナウイルスと闘えないと考えます。それを強いメッセージとして訴えていますし、これからも訴え続けていきます。

—— 座右の銘を教えてください。

座右の銘は、「人生は太く長くあれ」。何かをやれるチャンスがあったら、嫌がらずひとまずやってみる。やってみることで生まれてくることがあります。私はそうして内科から循環器、感染症と専門を広げてきました。趣味の音楽でも、海外で開かれた心筋症学会のレセプションで、歌ってほしいとリクエ



Profile

浮村 聡 Akira Ukimura

1984年 大阪医科大学卒業
1992年 大阪医科大学助手（第3内科教室）
2001年 大阪医科大学内科学(3)学内講師
2002年 米国ネブラスカ大学留学
2007年 2月 大阪医科大学内科学III教室講師
2007年 4月 大阪医科大学附属病院総合内科科長
2009年 4月 大阪医科大学内科学（総合診療科担当）専門教授
2009年 6月 大阪医科大学附属病院感染対策室室長兼務
2015年 4月 大阪医科大学附属病院感染対策室室長専任
2016年11月 大阪医科大学内科学III教室専門教授



本学のホームページにアップされている動画「コロナに負けるな！ーOne Teamー」では、浮村教授の娘さんでプロバイオリニストの浮村恵梨さんが「愛の夢」を演奏されています。

<https://youtu.be/X6ZOlg7ZAUo>

ストがあったので、カンツォーネを歌いました。そうすると海外の学会では「ミスターオーソレミオのドクター」と有名になり、研究での人脈もどんどん広がりました。人とつながりができることが豊かな人生にとって大事で、人脈ができることで、研究にも広がりが出てきます。

—— 最後に学生へのメッセージを。

医師ほど社会の幅広い層の人と接する職業はありません。また、広く社会に役立つ研究にも携われる職業です。せっかくそういう職業を選んでいるのですから、人と人のつながりを大切に、研究や物事の広がりを楽しんでください。

01 学校法人大阪医科薬科大学の2020年度予算と2019年度決算が承認されました

2020年度予算と2019年度決算がそれぞれ2020年3月26日と5月29日に開催された理事会で承認されました。

2020年度決算の事業活動収支は、教育活動収入が506億円と前年より16億円増加し、本業の収益を示す教育活動収支差額は14億円と前年より3億円増加しました。最終の基本金組入前当年度収支差額は16億円と前年より8億円の増加となりました。年度の途中まで順調に推移していましたので、終盤の新型コロナウイルス感染症の影響がなければ増収増益幅は更に拡大していたところです。

2020年度予算は、事業活動収支計算書の教育活動収入を530億円、教育活動収支差額を7億円、基本金組入前当年度収支差額を2億円としました。教育活動収支差額と基本金組入前当年度収支差額が前年実績より減少しているのは、臨床講堂棟等の解体費用を計上したためです。2020年度より着工する本学設立以来のビッグプロジェクトである病院新本館建築計画を実り豊かなものとするために皆さまのご協力を賜りますようお願いいたします。詳細については2019年度事業活動報告書(Annual Report)をご覧ください。



03 2019年度第6回市民公開講座開催報告及び2020年度予定

●2019年度第6回市民公開講座

2020年2月15日(土) 新講義実習棟P101

『進化する乳がん治療 一増え続ける乳がんに挑むー』

乳腺・内分泌外科科学寄附講座 岩本 充彦

『乳がんの薬物療法について』

病院薬剤部 永菰 友里恵

『知っておこう、乳がんのこと』

～普段の生活で注意したいこと～』

病院看護部 上田 育子



岩本特別任命教員教授

当日は、111名の方にご来場いただきました。

●2020年度市民公開講座予定

※第1回～第5回は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催中止となりました。最新の開催情報に関しましては、HPをご確認ください。

第6回市民公開講座

2021年2月20日(土) 新講義実習棟P101

『その痛み、我慢しないでください！』

ー 痛みの専門家ペインクリニックのアプローチ ー(仮)』

麻酔科学教室 城戸 晴規

02 2019年度大阪医科大学附属病院診療等功績顕彰(藤田賞)の表彰

2019年度の大阪医科大学附属病院診療等功績顕彰(藤田賞)の受賞者が、一般・消化器・小児外科 医員 濱元宏喜先生に決定し、2020年2月5日(水)の診療科長会にて授賞式が行われました。診療科長会にご出席の方々からの祝福の中、濱元先生に表彰状と金一封が授与されました。

この賞は、本院において診療並びに臨床教育に著しい功績のあった若手医師を顕彰するものです。2020年度の顕彰については、本年の秋頃に募集を予定しております。



04 2019年度人権教育特別講演会の開催について

日時：2020年2月18日(火) 17時30分～

場所：新講義実習棟P101

講師：大阪企業人権協議会 企業人権協議サポートセンター
特任講師 金井 敬三 氏

演題：「インターネットによる人権侵害～個人情報漏洩防止とSNSの適正な利用～」

人権教育推進委員会では、本学関係者に人権に対する意識を高めていただくために、毎年啓発活動を実施しています。2019年度はインターネットによる人権侵害をテーマにご講演いただきました。講演では、SNSの利用における問題点、個人情報漏洩に関する事例等について解説いただきました。当日は103名の参加があり、終了後には「SNSをよく利用するので、利用時にはもっと慎重にならなければならないと思った」「情報リテラシー教育の重要性を改めて感じた」といった感想が寄せられ、今後の業務にも活かせる有意義な機会となりました。



05 2020年度名誉・功労教授称号授与

2020年3月末日にて定年退職され、4月1日付けにて名誉・功労教授の称号を授与された教授は以下のとおりです。

名誉教授(5名)

鈴木 廣一 先生 法医学教室

泊 祐子 先生 看護学部小児看護学

道重 文子 先生 看護学部基礎看護学

元村 直靖 先生 看護学部精神看護学

米田 博 先生 神経精神医学教室

功労教授(2名)

宮武 伸一 先生 がん医療総合センター

余田 篤 先生 小児科学教室

なお、名誉教授の最終講義は以下のとおり実施されました。

○鈴木 廣一 先生(法医学教室)

2020年3月25日(水)16時30分～ 新講義実習棟P101
『事実・科学・法曹』

○泊 祐子 先生(看護学部看護学科)

2020年3月3日(火)16時～ 本部北キャンパス 看護学部講堂
『私の教育研究者としての道』

○道重 文子 先生(看護学部看護学科)

2020年3月2日(月)16時～ 本部北キャンパス 看護学部講堂
『看護教育と口腔ケア』

○元村 直靖 先生(看護学部看護学科)

2020年2月6日(木)16時～ 本部北キャンパス 看護学部講堂
『外傷後ストレス障害(PTSD)』

○米田 博 先生(神経精神医学教室)

2020年3月11日(水)16時～ 新講義実習棟P101
『精神疾患の遺伝学的枠組み』

07 大阪医科大学と高知県との基本協定書締結式

2020年3月24日、高知県庁において、濱田省司高知県知事と大槻勝紀学長との間で基本協定書の調印式が行われました。高知県と本学で2015年1月に協定(1期2年)を締結し、今回で4期目となります。2019年12月に就任された濱田高知県知事からは、6年に亘る医療支援プロジェクト事業の期待どおりの成果に対して謝辞が述べられ、大槻学長からは本事業を通じた総合診療医の育成や高知県多職種連携地域医療実習など6年間の成果について報告がありました。取組を継続し、更なる発展と充実を期待するとの熱い思いが語られ、最後に、今後の連携に向けて固い握手が交わされました。



06 2019年度日本がん看護学会学術奨励賞を受賞

看護学部の鈴木久美教授が、2020年2月に東京国際フォーラムで開催された第34回日本がん看護学会学術集会総会で「2019年度学術奨励賞」を受賞しました。学術奨励賞研究部門は、日本がん看護学会誌に掲載された論文の中から、独創性や得られた知見の発展性などの選考基準をもとに役員及び代議員により選出され、優れた論文が表彰されるものです。今回の受賞は、「乳がん早期発見のための乳房セルフケアを促す教育プログラムの効果」の研究成果が認められたものです。この研究は、乳がんサバイバーと他施設の共同研究者と協働して、一般女性を対象に乳がん啓発教育プログラムを発案・実施し、その成果を検証したものであり、がん啓発教育の新しい形として高く評価されました。



08 研究助成金(外部資金)採択報告

2020年3月26日(木)、学長室にて2019年度で単年200万円以上の研究助成金を獲得されたTR部門の副部門長である谷口高平講師(准)が、公益財団法人上原記念生命科学財団助成金を「消化器癌組織由来細胞外小胞を標的とする新規創薬開発」の研究題目で、生理学教室の佐々木真理講師が、公益財団法人内藤記念科学振興財団助成金を「イメージング技術を駆使した細胞増殖シグナル制御における膜電位の役割解明」の研究題目で、それぞれ採択されたことを大槻勝紀学長に財団より届いた賞状と共に報告を行いました。大槻学長は、採択の厳しい外部資金を獲得できたのは、先生方の熱心な研究への取り組みが評価されたこと、次世代へつなげる意義のある研究であるからと評され、更に本学に在籍する研究者の良き見本であり、伝統ある財団で「大阪医科大学」の名前が広く認知されることは、大変嬉しいことであると、喜びを語られました。報告後は、大槻学長が谷口講師(准)と佐々木講師にこれからの研究の目標や将来展望を聞き、医療や創薬への応用等について活発な意見交換を行い、最後は今後益々の活躍を期待しての記念撮影を行いました。



09 2019年度がん患者サロン「ひだまり」開催報告

本学附属病院を受診しているがん患者さん、ご家族を対象に開催しているがん患者サロン「ひだまり」は、2020年2月に第49回を迎え、2019年度は延べ215名の方に参加いただきました。参加者数は年々増加傾向にあり、多くの方から満足の声을いただいております。院内のさまざまな職種による、さまざまなテーマの勉強会を開催しており、2019年度は下記の医療スタッフによる講義を行いました。今後もより多くのがん患者さん、ご家族のお力になれるよう、一層尽力してまいります。



開催日	回数	講師	
2019年 4月20日	第44回	岩本 充彦	医師(乳腺・内分泌外科)
		但見 雅代	看護師 大阪医科大学訪問看護ステーション
6月15日	第45回	馬場 一郎	医師(整形外科)
		畑 智恵子	薬剤師
8月17日	第46回	吉岡 裕人	医師(放射線腫瘍科)
		出口 尚徳	医療ソーシャルワーカー
10月19日	第47回	川端 信司	医師(脳神経外科・脳血管内治療科)
		得居 紫寿	管理栄養士
12月7日	第48回	佐々木 浩	医師(婦人科・腫瘍科)
		常盤 紗恵子	理学療法士
2020年 2月15日	第49回	田中 慶太郎	医師(一般・消化器・小児外科)
		若林 暁子	公認心理師

10 2020年度新入生オリエンテーション

2020年4月1日(水)・2日(木)、2020年度新入生へのオリエンテーションを実施しました。新型コロナウイルスの感染拡大を受け、医学部・看護学部ともに当初の予定から規模を縮小し、内容を授業や学生生活における必須部分に絞って、新入生に説明を行いました。新入生は緊張した面持ちのなか、熱心に説明を聞き、大学生としてのスタートを切りました。2日目には、感染対策室室長の浮村専門教授による感染対策講義を聴き、コロナウイルスの内容を中心に、医療を学ぶ者として知っておくべき感染対策について、説明を受けました。今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大により、入学式や新入生学外合宿などの主要なイベントが中止になり、授業も遠隔で始まるなど、新入生にとっては不安や戸惑いを抱えながらの大学生活となりましたので、今後、継続して、教職員一体で新入生の修学面・生活面のサポートを行っていく予定です。

13 2020年度永年勤続者表彰

2020年度の永年勤続者は以下のとおりです。(敬称略)

勤続35年

研究支援センター	藤岡 良彦
生理学	南本 香寿美
人事課	平手 千鶴
庶務課	北尾 里江
総務課	脇田 美子
中央検査部	筒井 克子
輸血室	志磨 美緒
病院看護部	高木 裕美
保育室	平井 智子
保育室	満 真帆子

勤続20年

病理学	山田 隆司	病院看護部	森田 希
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	河田 了	病院看護部	宮嶋 梢
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	萩森 伸一	眼科	筒井 亜由美
一般・消化器外科学	田中 慶太郎	輸血室	平松 潔子
内科(三島南)	鈴木 秀治	消化器内視鏡センター	山口 朱美
内科学Ⅳ	武内 徹	健康科学クリニック	遠山 まり子
病理学	桑原 宏子	病院看護部	松本 由香
整形外科	馬場 一郎	病院看護部	三浦 愛美
病理部	安田 恵美	病院看護部(三島南)	瀧本 沙也香
内科学Ⅲ	伊藤 隆英	病院看護部	森 直美
入試・広報課	岩井 誠		

11 大阪医科大学さわらぎキャンパス・クラブハウス改築工事安全祈願祭を開催しました

2020年7月3日(金)、野見神社で安全祈願祭を開催しました。祈願祭には、大和リース株式会社から10名が参加、本法人からも植木實理事長をはじめ、濱岡純治理事長補佐・副理事長、佐野浩一副理事長ら16名が参加し、これから始まる改築工事の安全を祈念しました。



12 新本館建築工事地鎮祭を開催しました

2020年8月7日(金)、新本館建築工事の地鎮祭を開催しました。祭には、濱田剛史高槻市長ら来賓5名、清水建設株式会社から12名、日揮株式会社から5名が参加、本法人からも植木實理事長をはじめ、佐野浩一副理事長、南敏明病院長ら24名が参加し、これから始まる建築工事の安全を祈願しました。なお、新本館建築工事は8月に着工し、2022年にA棟が竣工する予定です。



学校法人 大阪医科薬科大学

シンボルマーク決定

大阪医科大学100周年記念事業の一環として募集を行っていた法人シンボルマークについて、28名から47作品の応募がありました。その後、慎重に選考が進められ、2020年8月4日(火)開催の理事会において、表彰作品が決定しました。



【最優秀賞】 高槻高等学校 教諭 大辻 英弘



作品説明:人に寄り添う「まごころ」と「向上」のベクトルがテーマです。中央の「O」は大阪の頭文字ですが、ヒトのハートそのもの、生命の躍動を表しています。医科薬科大学の英文頭文字「MPU」は、その基盤的位置に配しました。

【優秀賞】

大阪医科大学 医学部 國井 翼
大阪薬科大学大学院 薬学研究科 柏木 翔和

【佳 作】

大阪薬科大学 総務課 山田 久美

なお、最優秀作品については、応募作品をベースとして、使用用途やサイズ等により、デザインの一部を修正・改変し、今後展開する予定です。応募者の皆さま、ありがとうございました。

令和元年度

卒業式

日 時:2020年3月5日 場 所:高槻現代劇場大ホール
医学部生／99 名 看護学部生／84 名



2020年3月5日、高槻現代劇場大ホールにて、2019年度大阪医科大学卒業式が挙行されました。新型コロナウイルスの感染拡大を受け、当日は卒業生以外の出席者数を限定し、式の時間を大幅に短縮するなど、可能な限りの感染防止策を講じたうえで、卒業式を執り行いました。式では、大槻勝紀学長より、医学部・看護学部の代表者に卒業証書・学位記が授与されました。続いての学長告辞では、大槻学長からお祝いの言葉とともに、卒業生が医療人として他者を思いやり、利他の心で誠実に患者さんに接していく医療人になることを願うといった激励の言葉が述べられました。その後、褒賞授与や学歌演奏、スライドショー上映を行い、式は予定通りに終了しました。卒業生からは、開催自体が危ぶまれた中で、晴れの門出となる卒業式に参加することができ、良い思い出になったといった声が寄せられました。また、卒業式への出席を自粛していただいた保護者の方々には、後日、式の模様を撮影したDVDを送らせていただきました。



2019 年度

学位授与

- 大学院医学研究科
修了者(甲) 31 名
●論文提出者(乙) 9 名
- 大学院看護学研究科
前期課程修了者(修) 4 名
●大学院看護学研究科
後期課程修了者(博) 5 名

2019 年度 第 1 回 医学研究科 学位記授与名簿 (2019 年 9 月 4 日付授与)

番号 / 氏名	論 文 題 名
甲第 1114 号 奥田 吉隆	Periocular injection of candesartan-PLGA microparticles inhibits laser-induced experimental choroidal neovascularization (カンデサルタン-PLGA 微粒子の眼周囲注射はレーザー誘発実験的脈絡膜血管新生を阻害する)
甲第 1115 号 中尾 謙太	Yokukansan alleviates cancer pain by suppressing matrix metalloproteinase-9 in a mouse bone metastasis model (抑肝散はマトリックスメタロプロテアーゼ-9 を抑制することでがん性痛を和らげる)
乙第 1190 号 上原 博史	Mast cells regulate CD4+ T-cell differentiation in the absence of antigen presentation (肥満細胞による抗原提示を必要としない CD4 + T 細胞の分化誘導)
乙第 1191 号 駕馬 修史	Analysis of Extracellular Vesicles in Gastric Juice from Gastric Cancer Patients (胃癌患者胃液由来細胞外小胞の解析)
乙第 1192 号 栗山 達明	Recurrent benign pleomorphic adenoma of the parotid gland: Facial nerve identification and risk factors for facial nerve paralysis at re-operation (良性耳下腺多形腺腫再発: 顔面神経の同定と再手術による顔面神経麻痺のリスクファクター)
乙第 1193 号 鈴木 学	Values of fine-needle aspiration cytology of parotid gland tumors: A review of 996 cases at a single institution (耳下腺腫瘍の穿刺吸引細胞診の価値: 単一施設における 996 例の検討)
乙第 1194 号 藤木 陽平	Evaluation of clinical prognostic factors for interstitial pneumonia in anti-MDA5 antibody-positive dermatomyositis patients (抗 MDA5 抗体陽性皮膚筋炎合併間質性肺炎における臨床的予後因子の検討)

2019 年度 第 2 回 医学研究科 学位記授与名簿 (2020 年 3 月 4 日付授与)

番号 / 氏名	論 文 題 名
甲第 1116 号 青木 雅彦	Hyperprogressive disease during nivolumab or irinotecan treatment in patients with advanced gastric cancer (切除不能進行・再発胃癌に対するニボルマブ又はイリノテカン単剤療法における Hyperprogressive disease (HPD) の後方視的検討)
甲第 1117 号 芦原 敬允	Pharmacokinetic evaluation and antitumor potency of liposomal nanoparticle encapsulated cisplatin targeted to CD24-positive cells in ovarian cancer (卵巣癌に対する CD24 陽性細胞を標的とするシスプラチン包リポソームの薬物動態評価と抗腫瘍効果)
甲第 1118 号 今西 みゆき	A feasibility study of digital single-operator cholangioscopy for diagnostic and therapeutic procedure (with videos) (胆道疾患に対するデジタル型胆道内視鏡を用いた診断及び治療の有用性の検討 (ビデオ付))
甲第 1119 号 上田 康裕	O-GlcNAcylation-mediated degradation of FBXL2 stabilizes FOXM1 to induce cancer progression (O-GlcNAc 修飾は FBXL2 の分解を介して FOXM1 を安定化することで癌の進展に働く)
甲第 1120 号 金田 一真	Ghrelin attenuates imiquimod-induced psoriasiform skin inflammation in mice (グレリンはマウスのイミキモド誘発による乾癬様皮膚炎を減弱させる)
甲第 1121 号 木澤 隼	Chronic kidney disease as a possible predictor of left atrial thrombogenic milieu among patients with nonvalvular atrial fibrillation (非弁膜症性心房細動患者において、慢性腎臓病は左心房血栓性環境の予測因子になる可能性の検討)
甲第 1122 号 窪田 美紀	Autophagy deficiency exacerbates colitis through excessive oxidative stress and MAPK signaling pathway activation (オートファジー欠損は酸化ストレスの増加と MAPK シグナル伝達経路の活性化を介して大腸炎を悪化させる)
甲第 1123 号 佐藤 久友	Effects of strengthening the hip flexor muscles on walking ability and the locomotive syndrome rank test: an intervention study (股関節屈筋群の筋力強化が歩行能力とロコモ度テストに与える影響: 介入研究)
甲第 1124 号 佐野村 誠	Endoscopic diagnosis of the invasion depth of T1 colorectal carcinoma for endoscopic resection by using narrow-band imaging magnification as total excisional biopsy (NBI 拡大観察による完全摘除生検可能な大腸 T1 癌の内視鏡診断の検討)
甲第 1125 号 サンフォード (大関) 舞子	Comparison of a chymase inhibitor and hyaluronic acid/carboxymethylcellulose (Septrafil) in a novel peritoneal adhesion model in rats (新規腹部術後癒着モデルにおけるヒアルロン酸/カルボキシメチルセルロース (セプトラフィルム) とキマーゼ阻害薬の比較検討)
甲第 1126 号 斯波 宏行	Boron Neutron Capture Therapy Combined with Early Successive Bevacizumab Treatments for Recurrent Malignant Gliomas - A Pilot Study (再発悪性グリオーマに対してホウ素中性子捕捉療法後、早期にベバシズマブを続けて投与する試み - バイロットスタディ)
甲第 1127 号 島本 純子	The evaluation of oxidative stress in patients with psoriasis vulgaris and atopic dermatitis by measuring the urinary level of 8-hydroxy-2'-deoxyguanosine (尋常性乾癬患者およびアトピー性皮膚炎患者の尿中 8-OHdG 値を指標にした酸化ストレス評価)
甲第 1128 号 谷 裕基	Occurrence of cerebral small vessel disease at diagnosis of MPO-ANCA-associated vasculitis (MPO-ANCA 関連血管炎の診断時における脳小血管病の発生)
甲第 1129 号 田畑 智丈	Interleukin-24 is a novel diagnostic biomarker for the severity of acute kidney injury. (インターロイキン-24 は急性腎障害における新たな重症度診断マーカーである)
甲第 1130 号 辻中 聖也	Comparison of Plantar Pressure Distribution Between Postoperative Hallux Valgus Feet and Healthy Feet (反外母趾術後と健康者の足底圧分布の比較)

番号 / 氏名	論 文 題 名
甲第 1131 号 中川 浩輔	Histological analysis of the wrapping treatment for meniscal horizontal tears in rabbits. (半月板水平断裂に対するラッピング治療の組織学的検討—日本白色家兎を用いた研究—)
甲第 1132 号 中村 真由美	MicroRNA-22 enhances radiosensitivity in cervical cancer cell lines via direct inhibition of c-Myc binding protein, and the subsequent reduction in hTERT expression (miR-22 は、MYCBP を直接的に抑制し、それに続く hTERT の減少を介して子宮頸癌の放射線治療感受性を高める。)
甲第 1133 号 羽山 祥生	The evaluation of indirect neural decompression after lateral lumbar interbody fusion using intraoperative computed tomography myelogram (ハイブリッド手術室における術中脊髄造影後 CT を用いた側方進入腰椎椎体間固定術のみによる間接除圧効果の検討)
甲第 1134 号 福本 真延	Induction of brain-derived neurotrophic factor in enteric glial cells stimulated by interleukin-1 β via a c-Jun N-terminal kinase pathway (腸管グリア細胞に対する c-Jun N-terminal kinase pathway を介したインターロイキン 1 β 刺激は brain-derived neurotrophic factor 産生を誘導する)
甲第 1135 号 文元 聡志	Combined lipiodol marking and video-assisted thoracoscopic surgery in a hybrid operating room (ハイブリッド手術室におけるリビオドールマーキングと胸腔鏡下肺切除術の一期的施行の検討)
甲第 1136 号 蓬萊 亮斗	IgG4-positive plasmacytic infiltration in aortic wall and aortic valve surgical samples and its relation to preoperative serum IgG4 levels (大動脈壁および大動脈弁手術標本における IgG4 陽性細胞浸潤と術前血清 IgG4 値との関連)
甲第 1137 号 前田 大智	Fibrosis-4 index reflect right-sided filling pressure in patients with heart failure (心不全患者において Fibrosis-4 index は右室充満圧を反映する)
甲第 1138 号 松尾 謙太郎	Delta-like 3 localizes to neuroendocrine cells and plays a pivotal role in gastrointestinal neuroendocrine malignancy. (DLL3 は内分泌細胞に存在し、消化管内分泌細胞において重要な役割を担う)
甲第 1139 号 天野 美緒	Prospective clinical study of endoscopic ultrasound-guided biliary drainage using novel balloon catheter (with video) (新規バルーンカテーテルを用いた超音波内視鏡下胆道ドレナージ術を評価する前向き臨床試験)
甲第 1140 号 宮崎 博太	Vonoprazan versus proton-pump inhibitors for healing gastroesophageal reflux disease: A systematic review (胃食道逆流症に対するボノプラザンとプロトンポンプ阻害薬の治療効果の比較: システマティックレビューでの検討)
甲第 1141 号 横矢 悠太	Cost-utility analysis of 'vonoprazan-first' strategy versus 'esomeprazole- or rabeprazole-first' strategy in GERD (胃食道逆流症の治療におけるボノプラザンを第一選択とした Top-down 治療とエソメプラゾールまたはラベプラゾールを第一選択薬とした Step-up 治療の費用対効果の比較検討)
甲第 1142 号 吉川 大和	Long-term progression of ocular-surface disease in Stevens-Johnson syndrome and toxic epidermal necrolysis (スティーヴンス・ジョンソン症候群及び中毒性表皮壊死症における眼表面疾患の長期進行の検討)
甲第 1143 号 和田 有希	Relationship between plasma xanthine oxidoreductase activity and left ventricular ejection fraction and hypertrophy among cardiac patients (循環器症例における血漿キサンチン酸化還元酵素活性と左室駆出率および心臓肥大との関連)
甲第 1144 号 渡辺 智彦	Increased prevalence of cerebral microbleeds in patients with low left ventricular systolic function (左室収縮機能の低下と微小脳出血の有病率の関連)
乙第 1195 号 奥野 涼子	Upregulation of autophagy and glycolysis markers in keloid hypoxic-zone fibroblasts: Morphological characteristics and implications (ケロイドにおける低酸素領域線維芽細胞のオートファジーと解糖系マーカーの発現増加—形態学的考察—)
乙第 1196 号 河本 良輔	Correlation between laser speckle flowgraphy and optical coherence tomography angiography measurements in normal and glaucomatous eyes. (正常眼及び緑内障眼におけるレーザースペックルフローグラフィー及び OCT angiography の相関性の検討)
乙第 1197 号 西脇 詩	Prediction of bortezomib-induced peripheral neuropathy with the R-R interval variation of the electrocardiogram in plasma cell myeloma: a retrospective study (心電図 R-R 間隔変動を用いたボルテゾミブ誘発性末梢神経障害発症予測の検討)
乙第 1198 号 町田 康博	Reaction of threonine synthase with the substrate analogue 2-amino-5-phosphonopentanoate: Implications into the proton transfer at the active site (トレオニン合成酵素と基質類似物質 2-アミノ-5-ホスホノペンタン酸の反応: 活性部位におけるプロトン移動に対する意味合い)

2019 年度 看護学研究科 学位記授与名簿 (2020 年 3 月 4 日付授与)

番号 / 氏名	論 文 題 名
修第 28 号 東尾 智美	一般病棟から全科型集中治療室へ異動した看護師への教育的支援に関する検討 (A Study on Educational Support for Nurses Transferred from General Wards to Intensive Care Units)
修第 29 号 服部 智佐	統合失調症患者への精神科病院におけるターミナル期の看護実践の様相 (Aspects of Terminal Nursing Practice in Psychiatric Hospitals for Schizophrenic Patients)
修第 30 号 仲 文子	40 歳未満の労働者における生活習慣とワーク・エンゲイジメントの関連 (Relationship between Lifestyle and Work Engagement of Japanese Workers under 40)
修第 31 号 勝山 あづさ	集中治療室における早期リハビリテーションの安全な実施に向けた多職種情報共有の検討 (A Study on Interprofessional Information Sharing for Implementing Safe Early Rehabilitation at Intensive Care Unit)
博第 15 号 長谷川 幹子	病いにより苦悩する患者へ関わる看護師のありようの探求 (On Nurses' Attitude to Patients Suffering from Illness)
博第 16 号 森本 亜代美	続発性リンパ浮腫をもつ在宅高齢者への訪問看護介入リンパ浮腫ケアプログラムの構築 (Study of Construction of a Home-Visit Nursing Interventional Lymphedema Care Program for Elderly at Home with Secondary Lymphedema)
博第 17 号 南口 陽子	進行がん高齢患者の最期を迎える場における患者と家族の意思決定支援モデルの開発 (Development of a Nursing Intervention Model to Support Decision Making for Patients and Their Families about the Place of Death for Elderly Patients with Advanced Cancer)
博第 18 号 名草 みどり	成熟期女性労働者に対するプレコンセプションケア健康教育プログラムの評価 (Evaluation of Preconception Care Health Education Program for Female Workers of Reproductive Age)
博第 19 号 鈴木 美佐	食物アレルギーのある子どもの対処過程に基づいた心理教育支援ガイドの開発に関する研究 (Based on the Coping Process of Children with Food Allergies Study on Development of Psychoeducational Support Guide)

大阪医科大学病院 病院長就任のご挨拶

病院長 南 敏明

2020年4月1日、大阪医科大学病院病院長の職を拝命いたしました。新型コロナウイルス感染者増加の中、重責を担うこととなりました。宜しくお願ひ申し上げます。

新型コロナウイルス感染症は、本院の医療スタッフ、法人の皆さま、全職員が一丸となって対応いただいたこと、および行政、企業、団体、個人の皆さまから多数のご支援を賜ったお陰で、患者さん、職員の院内感染を一例も発生させることなく無事に第一波を乗り切ることができました。ひとえに皆さまのお力添えのお陰の賜物と感謝申し上げます。

2027年に迎える大阪医科大学創立100周年の記念事業として、「超スマート医療を推進する大学病院」を基本方針に掲げた病院新本館の建築がスタートしています。2016年3月、病院西側に「各手術室の主用途に応じた専門性だけではなく高い汎用性を両立する」コンセプトが盛り込まれた「中央手術棟」が竣工しました。中央手術棟は、現在、TAVI（経カテーテル大動脈弁植え込み術）などのアンギオハイブリッド手術、CTハイブリッド手術やロボット手術など最新技術が導入され、良好な手術成績を上げています。医師・看護師・薬剤師・臨床工学技士・中央材料室・物流・施設・事務によるチーム医療を実践し、

24時間断らない中央手術室を運営しています。手術症例数も大幅に増加して、2019年には年間12,557例の手術、7,272例の麻酔科管理症例が施行されています。

私は、麻酔科学教室教授、建築プロジェクト推進会議長を併任しており、あらゆる職種の方の意見を反映させた病院建築を目指しています。病院5号館と臨床講堂棟の取り壊しは完了し、2022年には最新設備を導入した12階建ての病院新本館A棟が、2025年には病院新本館B棟が竣工する予定です。そして、病院新本館A棟1階には、大阪府三島救命救急センターの三次救急機能が移転する予定です。

次世代へ夢のある病院建築、100周年事業への橋渡しの一翼を担えたらと考えています。ただ、新本館竣工時には私は診療することはないと思われるので、私自身が入院してお世話になることを考えて建築に当たっています。

今後は、病院経営に貢献できるように病院を運営してまいる所存ですので、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

副院長



今川 彰久 教授



勝間田 敬弘 教授



高須 朗 教授



根尾 昌志 教授



星賀 正明 専門教授



略歴

1987年3月	大阪医科大学 卒業
1993年8月	大阪医科大学 麻酔科学教室 助手
2001年1月	大阪医科大学麻酔 科学教室 学内講師
2002年4月	大阪医科大学麻酔 科学教室 教授
2006年6月～2018年3月	関西医科大学客員 教授
2012年4月～2020年3月	大阪医科大学病院 副院長
2020年4月	大阪医科大学病院 病院長



医学部 予防・社会医学講座
法医学教室

教授 佐藤 貴子

2020年4月1日付で鈴木廣一前教授の後任として、予防・社会医学講座法医学教室教授に着任いたしました。

私は卒業後、神経内科医として約10年間働いたのちに法医学を志し、本学法医学教室に入職いたしました。法医学の大きな役割の一つは、死因究明のための解剖実務ですが、その他、DNA鑑定、薬物鑑定など多岐にわたります。ま

た、警察等の司法関係者に適切な医療情報を提供することも重要な仕事です。

近年、社会情勢の変化に伴い、自宅で病死され法医解剖に付される例も増えてきました。私は、臨床医として培った能力および経験を活かしつつ、法医学を通じて社会貢献を行っていきたいと考えています。

さらに、法医学における後進の育成は喫緊の課題です。若い先生方が法医学を専攻したくなるような魅力ある教室作りに尽力することによって、大阪医科大学の発展に寄与していきたいと考えています。どうぞよろしくお願い申し上げます。

略歴

1996年	大阪市立大学 医学部医学科 卒業
1996年	大阪大学医学部附属病院 研修医 (神経内科)
1997年	現・関西ろうさい病院 神経内科
2002年	大阪医科大学病院 非常勤医師 (病態検査学教室)
2005年	現・堺市立総合医療センター 神経内科 医長
2006年	医学博士 (大阪大学 神経内科学専攻)
2008年	大阪医科大学 法医学教室 助教
2012年	大阪医科大学 法医学教室 講師
2015年	大阪医科大学 法医学教室 准教授
2018年	独国Düsseldorf大学 法医学研究所 留学
2020年	大阪医科大学 法医学教室 教授



医学部 総合医学講座
神経精神医学教室

教授 金沢 徹文

2020年4月1日付で前任の米田博教授のあと、総合医学講座神経精神医学教室（精神神経科）教授に着任いたしました。

私は平成12年に本学を卒業後、一般消化器外科入局を経て精神神経科に転科し、臨床・研究・教育の現場で研鑽を積んでまいりました。

精神科は医療分野のみならず社会にお

いてもその重要性をますます増えています。発達障害、うつ病、認知症など私が医師になった頃に比べると求められるものが多様化し、要求されるレベルも上がっているように感じています。また研究面においても脳・神経科学分野は最もエキサイティングな分野の一つといっても過言ではないでしょう。この時代に神経精神医学教室を率いることの重責を感じながら、仲間たちと共に楽しく厳しい教室を主催していこうと考えています。これまで以上の温かいご支援・ご指導を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

略歴

2000年	大阪医科大学 卒業 同附属病院 一般消化器外科 入局
2002年	大阪医科大学病院 精神神経科 専攻医
2003年	新淡路病院勤務
2005年	米国カリフォルニア大学サンディエ ゴ校留学
2007年	小曽根病院勤務
2010年	大阪医科大学 神経精神医学教室 助教
2013年	大阪医科大学 神経精神医学教室 講師
2017年	豪州メルボルン大学 精神科 准教授 豪州ハワード・フローリー研究所 名誉准教授
2020年	大阪医科大学 神経精神医学教室 教授



看護学部小児看護学
教授 竹村 淳子

2020年4月1日付で看護学部小児看護学の教授に着任いたしました。微力ではありますが教育・研究と社会貢献に努めてまいりたいと思います。

専門領域は小児看護学です。臨床ではさまざまな病気や障がいがある子どもたちの看護を実践してまいりました。私は、重症心身障がい児の家族支援に関する研究に取り組んでおります。現在関心を寄せているのは、学校を卒業した後の生

活です。病気や障がいがある子どもとその家族が、その人らしく生活するために、当事者が主体的に生きる力をつけることが必要です。そのためのプログラムを検討しているところです。

教育活動では、小児看護学におけるスペシャリストの育成が重要な課題です。小児看護の対象は病気も年齢も幅広く、家族を含めた看護には高い水準が求められます。今後は、小児看護のリーダーシップを発揮できる人材育成にも努めてまいりたいと思います。どうぞご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

略歴

1980年	滋賀県立総合保健専門学校 卒業
1980年	済生会滋賀県病院 看護師
1988年	滋賀県立小児保健医療センター 看護師／主任
1999年	滋賀県済生会看護専門学校 専任教員／課長
2004年	滋賀医科大学 修士（看護学）取得
2010年	大阪医科大学 看護学部 准教授
2014年	川崎医療福祉大学 博士（保健看護学）取得
2017年	関西福祉大学 看護学部 教授
2020年	大阪医科大学 看護学部 教授

— 新任挨拶 —

看護学部基礎看護学
看護学研究科看護技術開発看護学
教授 **宮島 多映子**

2020 年 4 月 1 日付で看護学部基礎看護学、看護学研究科看護技術開発看護学の教授に就任いたしました。基礎看護学、看護技術開発看護学は、理論と実践を研究する学問であり、幅広い視点で人間を見つめる科学であります。私は、「学問は人間を幸福にするための知識の体系」であり、「看護が人間を対象とする以上、すべての学問が看護には必要である」と考え、幅広い視点で看護の研究と教育を進めていきたいと考えております。

私は、第一種内視鏡技師の経験から開発した看護技術である Miyajima 式腹部圧迫法の臨床応用や立位困難な高齢者の下肢筋

力を向上させる機械と運動プログラムの開発、看護技術の生理学的検証などを研究してきました。いずれも、臨床実践の中での小さな気づきを理論的に証明したいという思いが元になっています。また、情報メディアとしてのマンガを分析し、看護師の

イメージや看護教育、看護管理の研究なども行っています。

今後も、様々な学問を駆使し、幅広い視点で人間を幸福にするための看護の研究と教育に精進してまいる所存です。何卒、ご支援、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

略歴

1990年 3 月 附属看護学校看護婦科 卒業
1990年 4 月 現・大阪医療センター 看護師（循環器内科）
1991年 7 月 現・JCHO星ヶ丘医療センター 看護師（卒中内科 内視鏡室：第一種内視鏡技師 等）
1999年 3 月 佛教大学 社会学部応用社会学科 学士授与
2001年 4 月 現・山梨大学 看護学科人間科学・基礎看護学 助手
2001年 9 月 兵庫県立看護大学 看護学研究科看護生態学専攻 修士授与
2003年 4 月 山梨大学大学院 医学工学 総合研究部 医学学域看護学系（人間科学・基礎看護学）助手
2006年 3 月 山梨大学大学院 医学工学総合教育部 人間環境医工学専攻 博士授与
2006年 4 月 浜松医科大学 医学部看護学科 基礎看護学 看護学研究科基礎看護学専攻 専任講師
2006年11月 浜松医科大学 医学部看護学科基礎看護学 看護学研究科基礎看護学専攻 准教授
2012年 4 月 奈良県立医科大学 医学部看護学科基礎看護学 看護学研究科基礎看護学専攻 准教授

看護学部急性期成人看護学
教授 **安田 稔人**

2020 年 4 月 1 日付で大阪医科大学看護学部看護学科の教授に着任いたしました。私は1988 年に大阪医科大学を卒業し、運動器を専門とする整形外科医として勤務してまいりました。運動器の障害は日常生活動作（ADL）に直結し、生活の質（QOL）を低下させ、結果的には生命をも脅かします。これから迎える超高齢化社会における健康寿命の延長のために、看護学においても運動器は重要な分野であると

思っています。チーム医療のためには多職種連携教育が必須ですが、医師と看護師はそれぞれの立場や価値観の違いがあります。多職種連携教育は、まずお互いの立場の相違を認識することから始まります。医学部でのこれまでの臨床、研究、教育の経験を生かし、今後は看護教育、看護研究を通して、チーム医療の中で相手の立場を理解し、自ら考えて行動する医療人の育成に力を注ぎたいと考えています。私自身も学生の皆さんと共に学び、成長していければと思っています。何卒、ご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

略歴

1988年 大阪医科大学 卒業
1988年 大阪医科大学病院 整形外科研修医
1989年 市立ひらかた病院・西宮協立脳神経外科病院・大阪府三島救命救急センター・暇生会脳神経外科病院
1993年 大阪医科大学大学院 入学
1997年 生駒総合病院 整形外科 医長
2000年 医学博士号取得
2002年 大阪医科大学 整形外科教室 助手
2005年 大阪医科大学 整形外科教室 学内講師
2012年 大阪医科大学 整形外科教室 講師
2015年 大阪医科大学 整形外科教室 准教授
2020年 大阪医科大学 看護学部看護学科 教授

研究助成金の内定・採択について （2020 年 7 月 2 日現在）

■ 第 14 回（2019 年度）内藤記念女性研究者研究助成金（公益財団法人 内藤記念科学振興財団） （単位：千円）

研究課題名	氏名（所属名・職名）	助成金額
イメージング技術を駆使した細胞増殖シグナル制御における膜電位の役割解明	佐々木 真理（生理学・講師）	6,000

■ 2019 年度 ビジョンアリーリサーチ助成（スタート）（公益財団法人 武田科学振興財団）

研究課題名	氏名（所属名・職名）	助成金額
電気シグナルに操られる細胞	佐々木 真理（生理学・講師）	2,000

■ 2019 年度 研究奨励金（研究助成）（健康科学・医学・薬学）（公益財団法人 上原記念生命科学財団）

研究課題名	氏名（所属名・職名）	助成金額
消化器癌組織由来細胞外小胞を標的とする新規創薬開発	谷口 高平 （研究支援センター・TR 部門・副部門長）	2,000

■ 2019 年度 がん研究助成奨励金（公益財団法人 大阪対がん協会）

研究課題名	氏名（所属名・職名）	助成金額
難治性固形癌に対する医工薬の知見を集約した microRNA 創薬化研究	谷口 高平 （一般・消化器外科学・講師（准））	300

■ 平成 31 年度 医学研究助成（公益財団法人 大阪難病研究財団）

研究課題名	氏名（所属名・職名）	助成金額
常染色体優位性多発性嚢胞腎のシーケンス解析による疾患原因の解明	小村 和正（泌尿器科学・講師）	1,000

■ 令和 2 年度 腎疾患研究助成金（公益財団法人 大阪腎臓バンク）

研究課題名	氏名（所属名・職名）	助成金額
透析嚢胞腎に発生する腫瘍のオミックス解析と新規治療ターゲットの解明	小村 和正（泌尿器科学・講師）	100

■ 緊急支援 新型コロナウイルス感染症対策 助成プログラム（公益財団法人 中谷医工計測技術振興財団）

研究課題名	氏名（所属名・職名）	助成金額
新型コロナウイルス（COVID-19）を迅速かつ簡便に判定するための判定法とシステム構築	永塚 健宏（研究支援センター・特務助教）	2,000

■ 2020 年度プラズマバイオコンソーシアムプロジェクト（大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 新分野創成センター）

研究課題名	氏名（所属名・職名）	助成金額
常温大気圧プラズマが生物に及ぼす影響の分子生物学的メカニズム解明	小林 未明（薬理学・非常勤講師）	1,600

■ 第 52 回（2019 年度）医学研究助成（公益財団法人 大樹生命厚生財団）

研究課題名	氏名（所属名・職名）	助成金額
ナショナルデータベースを活用した骨粗鬆症性骨折前後における骨粗鬆症治療変化のリアルワールド実態解明	玉置 淳子 （衛生学・公衆衛生学Ⅰ・Ⅱ・教授）	1,000

■ 2020 年 4 月助成「がん研究助成」（公益財団法人 大阪コミュニティ財団）

研究課題名	氏名（所属名・職名）	助成金額
患者由来腫瘍培養系を用いた耳下腺癌の治療薬物スクリーニングの基盤構築	森脇 一将（薬理学・助教）	1,000

■ 平成 30 年度 研究奨励金（公益財団法人 森永奉仕会）

研究課題名	氏名（所属名・職名）	助成金額
新生児慢性肺疾患に対するプロスタグランジンF2α受容体遮断薬の治療効果について	山岡 繁夫（周産期センター・助教）	450

■ 平成 31 年度 医学研究助成（公益財団法人 大阪難病研究財団）

研究課題名	氏名（所属名・職名）	助成金額
超音波内視鏡下胆管胃吻合術における胆汁漏出の危険因子の検討	西岡 伸（内科学Ⅱ・助教（准））	500

■ 平成 31 年度 医学研究助成（公益財団法人 大阪難病研究財団）

研究課題名	氏名（所属名・職名）	助成金額
ヒト iPS 細胞を用いた新たな炎症性腸疾患モデルの作成	辻本 裕之（内科学Ⅱ・大学院生）	500

■ 2019 年度 ノバルティスファーマ 研究助成 （ノバルティスファーマ株式会社）（単位：千円）

研究課題名	氏名（所属名・職名）	助成金額
スフィンゴ糖脂質誘導性心不全発症の分子メカニズム解明	朝日 通雄（薬理学・教授）	500
パーキンソン病における polo like キナーゼ 2 欠損による α - シタグレインのリン酸化抑制効果の解析	荒若 繁樹（内科学Ⅳ・教授）	500
血清サイトカインの網羅的解析を用いた顕微鏡的多発血管炎合併間質性肺炎の病態解明及び新規バイオマーカーの検索	武内 徹（リウマチ膠原病内科・診療准教授）	500
新規免疫寛容誘導法「術前自己 Treg 培養による adoptive transfer」と MF1 遺伝子導入による移植腎永久生着の試み	東 治人（泌尿器科学・教授）	500
不可視光を使用した涙道内視鏡の開発	三村 真士（眼科学・講師（准））	500

■ 2019 年度 高齢者の福祉および健康づくりに関する調査・研究助成 （公益財団法人 大阪ガスグループ福祉財団）

研究課題名	氏名（所属名・職名）	助成金額
健康寿命の延伸に向けた運動器疾患に対する人工関節置換術の患者立脚型評価に関する影響因子の解明	岡本 純典（整形外科・講師（准））	400

■ 令和元年度 調査研究助成 （公益財団法人 科学技術融合振興財団）

研究課題名	氏名（所属名・職名）	助成金額
医療従事者の多職種協働による急変対応教育を目的としてシリアスゲームの開発	駒澤 伸泰（医学教育センター・講師（准））	179

■ 令和 2 年度「微生物病共同研究拠点」 （大阪大学微生物病研究所）

研究課題名	氏名（所属名・職名）	助成金額
二本鎖 RNA ウイルスの複製におけるインターフェロン誘導性抗ウイルス因子 RyDEN/C19orf66 の役割の解析とその分子機能の解明	鈴木 陽一（微生物学・講師）	225

■ 2019 年度 クッキーテスト臨床研究 （公益財団法人 健康加齢医学振興財団）

研究課題名	氏名（所属名・職名）	助成金額
小児肥満症に対するクッキーテストの有用性についての検討	高谷 竜三（小児科学・非常勤講師）	300

■ 2019 年度（後期） 一般公募「在宅医療研究への助成」 （公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団）

研究課題名	氏名（所属名・職名）	助成金額
人生の終焉を生きる場の選択におけるがん末期高齢患者と家族の合意形成を支える看護実践	三原 綾（大学院看護学研究科・大学院生）	244

■ 2019 年度 がん研究助成奨励金 （公益財団法人 大阪対がん協会）

研究課題名	氏名（所属名・職名）	助成金額
化学療法を受けている大腸がん患者のレジリエンスと、不安や抑うつ、QOL との関連及びそれらの影響要因	田村 沙織（大学院看護学研究科・大学院生）	300

■ 令和元年度 共同利用・共同研究 （公立大学法人 大阪市立大学人工光合成研究拠点）

研究課題名	氏名（所属名・職名）	助成金額
ポルフィリン生合成経路を律速するアミノレプリン酸合成酵素の構造学的研究	生城 浩子（生化学・講師）	200

■ 2020 年度 物質・デバイス領域共同研究 （物質・デバイス領域共同研究拠点（東北大学多元物質科学研究所））

研究課題名	氏名（所属名・職名）	助成金額
超高分解能 X 線および中性子結晶構造解析に基づく銅含有アミン酸化酵素の機能改変	村川 武志（生化学・助教）	40

■ 2020 年度 物質・デバイス領域共同研究 （物質・デバイス領域共同研究拠点（東北大学多元物質科学研究所））

研究課題名	氏名（所属名・職名）	助成金額
脳腫瘍での中性子補足療法における新規ホウ素化合物の開発	福尾 祐介（脳神経外科学・大学院生）	100

■ 令和 2 年度 共同利用・共同研究 プロジェクト型共同研究 （新潟大学脳研究所）

研究課題名	氏名（所属名・職名）	助成金額
RNA-Se q 解析を用いるがん性疼痛と難治性神経障害性疼痛に関連分子の探索・同定	伊藤 誠二（麻酔科学・客員教授）	150

■ 令和 2 年度（2020 年度） 研究助成 （公益財団法人 大阪アイバンク）

研究課題名	氏名（所属名・職名）	助成金額
糖尿病ラットのインスリン受容体発現と網膜血管細胞の protein kinase C に対する反応	喜田 照代（眼科学・講師）	360

○研究推進課から応募申請しました公募助成金等のうち、内定・採択を確認できたもの、及び研究者より直接内定・採択の情報提供のあったものを掲載しています。

日本医療研究開発機構研究費の継続課題について

革新的がん医療実用化研究事業（研究代表者）（単位：千円）

研究課題名	所属	職名	研究代表者名	2020年度	2021年度
新規 BNCT 治療システムによる再発難治性高悪性度髄膜腫に対する第Ⅱ相医師主導治験に関する研究開発	関西 BNCT 共同医療センター	特別職務担当教員（教授）	宮武 伸一	17,100	19,000

※ 2021 年度の研究費は交付内定時のもの

厚生労働科学研究費補助金の継続課題について

がん対策推進総合研究事業（研究代表者）（単位：千円）

研究課題名	所属	職名	研究代表者名	2020年度	2021年度
パートナーシップでつくるがん統計情報の国民への還元方法に関する研究	医療統計室	准教授	伊藤 ゆり	2,250	2,500

※ 2021 年度の研究費は交付内定時のもの

科学研究費助成事業 2020(令和 2)年度新規採択課題および継続課題について

新規採択課題

2020 年 4 月 1 日付、科研費の交付内定が行われ 64 課題が新規採択されました。

研究種目	応募件数	採択件数
新学術領域研究(公募研究)	3	1
基盤研究 (B)	11	3
基盤研究 (C)	133	37
若手研究	81	23
挑戦的研究（開拓）	0	-
挑戦的研究（萌芽）	8	-
合計	236	64

※挑戦的研究の交付内定は 7 月下旬～ 8 月中旬頃

■ 新学術領域研究	※ 研究課題番号順 ※ 所属・職名は交付内定時のもの ※ 内定時点で退職等により不在の研究代表者の所属・職名は応募時のもの
（単位：千円）	

研究課題名	所属	職名	研究代表者名	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
シリアルフェムト秒結晶構造解析による銅含有アミン酸化酵素の触媒機構の解明	生化学	助教	村川 武志	2,600	2,700	0	0	0

■ 基盤研究 (B)（単位：千円）

研究課題名	所属	職名	研究代表者名	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
脳腫瘍に対する複数ホウ素薬剤併用によるマルチターゲット型中性子捕捉療法の確立	脳神経外科学	准教授	川端 信司	5,500	5,800	2,400	0	0
子育て期の女性と子どもの健康に影響を与える子育て環境要因を把握する社会疫学研究	社会・行動科学	教授	本庄 かおり	4,000	2,200	4,900	2,400	0
青年前期の子どもと親のための Family-based がん啓発教育プログラム開発	看護学部看護学科	教授	鈴木 久美	1,400	2,800	2,800	2,100	0

■ 基盤研究 (C)（単位：千円）

研究課題名	所属	職名	研究代表者名	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
見落とされやすい LD「読解障害」には正しい教育支援が提供されているか？	小児科学	講師	島川 修一	800	700	600	800	0
非凍結結晶を用いた "in crystallo" 酵素反応解析	生化学	助教	村川 武志	900	1,200	1,200	0	0
シングルセル解析による体節形成の多様性を統合する分子基盤の解明	微生物学	非常勤講師	小田 康子	1,400	1,300	700	0	0
疾患 iPS 分化神経細胞を用いたシナプス機能解析による統合失調症の病態機序解明	研究支援センター	特別職務担当教員(講師)	栗生 俊彦	1,700	700	800	0	0

研究課題名	所属	職名	研究代表者名	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
膜電位による細胞機能制御メカニズムの解明	生理学	講師	佐々木 真理	2,100	900	400	0	0
栄養飢餓とバクテリアの細胞死 ー生死選択の個体差の研究ー	物理学	講師	牧 泰史	1,300	1,100	900	0	0
小細胞肺癌でのがん免疫療法における、mTOR 阻害剤併用の有用性の検証	病理学	講師	川畑 茂	1,100	1,500	700	0	0
遺伝子治療に向けた一塩基編集技術の活用「クラブ病モデルマウスを用いて」	解剖学	助教	田中 義久	1,400	800	1,100	0	0
バルーン閉塞下膀胱癌動注療法の基礎的検証と新治療法の開発：医獣連携モデルの確立へ	放射線診断学	助教	山本 聖人	1,100	1,200	1,000	0	0
糖転移酵素による糖尿病合併癌の制御メカニズムの解明と治療戦略の構築	内科学Ⅱ	教授	樋口 和秀	1,100	1,100	1,100	0	0
マイクロ波レーダーを用いた簡便な頸静脈波解析方法の開発と心不全診療への応用	内科学Ⅲ	専門教授	星賀 正明	1,300	1,200	900	0	0
腎透析のバスキュラーアクセスに用いる新しい素材からなる人工血管の開発	大学院医学研究科	講師	金 徳男	1,000	1,100	1,300	0	0
CCL1 の阻害による肝硬変の感染抵抗性改善効果について	中央検査部	助教	土本 雄亮	1,600	900	700	0	0
microRNA 機能解析によるパクリタキセル耐性機序の解明と不応性の克服	一般・消化器外科学	講師（准）	木村 光誠	1,000	1,300	1,000	0	0
胃癌組織細胞外小胞の制御による癌微小環境治療に向けた基盤構築研究	一般・消化器外科学	講師	李 相雄	1,500	1,100	700	0	0
肝癌における 5- アミノレブリン酸を用いた超音波力学療法の破壊効果	外科（三島南）	准教授 (医療施設等)	井上 善博	1,300	1,100	900	0	0
急性膵炎に対する Chymase による病態解明と Chymase 阻害剤の創薬化研究	一般・消化器外科学	講師（准）	米田 浩二	1,000	1,100	1,200	0	0
Pseudopgression の病態解明と画像診断法の確立	脳神経外科学	診療准教授	古瀬 元雅	1,100	1,300	900	0	0
神経膠腫の浸潤機序解析と浸潤能を標的とした先駆的治療法の開発	脳神経外科学	教授	鰐淵 昌彦	1,100	1,100	1,100	0	0
葉酸受容体標的ホウ素化合物を用いた CED 法による BNCT 治療効果向上に関する研究	脳神経外科学	講師（准）	平松 亮	1,200	1,200	900	0	0
新規シート状半月板 scaffold の開発と臨床応用に向けた検討	整形外科	講師	大槻 周平	1,900	900	400	0	0
変異 SETD2 の機能喪失メカニズムの解析と腎癌に対する免疫療法への応用	泌尿器科学	准教授	稲元 輝生	800	700	700	700	0
マクロファージ吸着物質による牛結核菌 BCG の抗腫瘍効果増強と副作用減弱法の開発	血液浄化センター	准教授	能見 勇人	1,100	700	700	700	0
3 次元オルガノイド培養を用いた難治性卵巣癌の個別化医療の構築	産婦人科学	教授	大道 正英	900	1,000	1,400	0	0
レゴラフェニブのヒト結膜線維芽細胞の増殖・分化におよぼす影響	眼科（三島南）	教授 (医療施設等)	小嵐 祥太	2,000	800	600	0	0
化学療法による口腔粘膜炎における口腔細菌叢と IgA 抗体応答性の関与	口腔外科学	助教	小越 菜保子	1,200	1,300	700	0	0
急性冠症候群発症の地域差に寄与する背景因子を重視した予防プログラムによる介入研究	地域総合医療科学寄附講座	特別任命教員教授	鈴木 富雄	900	300	300	300	500
看護師のリフレクション学習を支援するファシリテーター育成プログラムの開発	看護学部看護学科	教授	池西 悦子	1,200	200	700	1,100	0
子育て期にある看護師の「働き方」リテラシーを高める教育プログラムの開発	看護学部看護学科	講師	川北 敬美	1,100	900	700	600	0
分子標的薬内服治療を受ける肺がん高齢患者の自己管理支援プログラムの有効性の検討	看護学部看護学科	准教授	府川 晃子	600	500	600	0	0
地域共生社会における発達障害児家族を支える地域高齢者による支援モデルの検討	看護学部看護学科	准教授	草野 恵美子	900	1,100	500	800	0
認知リハビリテーションの効果を高める看護学的アプローチの検証	看護学部看護学科	准教授	久保田 正和	1,300	1,200	300	500	0
顔面神経麻痺後遺症に対するリハビリテーション治療の効果の電気生理学的研究	リハビリテーション医学	講師	仲野 春樹	200	200	300	0	0
スポーツ選手のアキレス腱断裂に対する早期運動療法を併用した多血小板血漿療法	看護学部看護学科	教授	安田 稔人	1,000	1,000	700	0	0
糖尿病運動療法の最適化を目指した AMPK/OGT クロストークの解明	薬理学	講師	中川 孝俊	1,100	1,300	900	0	0

（他機関より移管）

学校卒業後の在宅重症心身障がい児に適したデイサービスガイドラインの作成	看護学部看護学科	教授	竹村 淳子	400	400	800	400	0
-------------------------------------	----------	----	-------	-----	-----	-----	-----	---

（他機関へ移管）

読字困難児の読解力の改善を目的とした語彙習得プログラムの開発	小児科学	非常勤講師	赤尾 依子	1,000	1,000	700	600	0
レセプトデータを用いた高齢者における Polypharmacy に関する薬剤疫学研究	衛生学・公衆衛生学Ⅰ・Ⅱ	助教	新田 明美	2,200	300	300	600	0

■ 若手研究

（単位：千円）

研究課題名	所属	職名	研究代表者名	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
全身性エリテマトーデス母体から出生した児の学習障害とその学習支援に向けて	小児科学	助教	杉田 侑子	500	700	500	700	0
遺伝子操作系によるネコモルビリウイルスの分子クローンの樹立と細胞内侵入機構の解明	微生物学	助教	坂口 翔一	1,600	1,600	0	0	0

研究課題名	所属	職名	研究代表者名	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
MAO-B 発現欠損による α シヌクレイン神経毒性と細胞間伝播緩和効果の解析	内科学Ⅳ	助教（准）	太田 真	1,400	1,200	600	0	0
分泌小胞を介した神経伝達物質放出と α シヌクレイン細胞外分泌の機能的関連の解明	内科学Ⅳ	非常勤医師	重清 太郎	1,700	800	700	0	0
膠原病合併間質性肺炎における S100 タンパク質の臨床的意義の検討	内科学Ⅳ	助教（准）	平松 ゆり	800	700	0	0	0
炎症性腸疾患における血栓形成傾向と Immunothrombosis の関連性の解明	内科学Ⅱ	助教	平田 有基	1,000	1,100	500	0	0
オートファジー制御による薬剤性小腸粘膜傷害改善の可能性の検討	内科学Ⅱ	非常勤医師	原田 智	600	900	0	0	0
ベッドサイドで可能な血管エコーを用いたうっ血の評価法の開発と臨床応用に関する検討	内科学Ⅲ	助教	大関 道薫	700	100	0	0	0
動脈硬化合併関節炎モデルマウスにおける新規機能的タンパク質の有効性の検討	内科学Ⅳ	助教（准）	木坊子 貴生	1,000	800	0	0	0
メタゲノム解析を用いた大腸癌集学的治療が口腔内・腸内細菌叢に及ぼす影響の検討	一般・消化器外科学	助教	大住 涉	1,300	1,100	700	0	0
骨がんモデルマウスにおけるがん増殖とがん性疼痛における一次求心性線維の役割の解明	麻酔科学	助教（准）	長峯 達成	2,000	900	0	0	0
術後残存肺の代償性膨張の量的・質的検討	麻酔科学	講師	中平 淳子	1,100	1,100	0	0	0
神経障害性痛に対する抗酸化作用物質の効果	麻酔科学	助教	尾本 遥	1,400	1,300	0	0	0
高齢者重症患者に対する漢方を併用した経腸栄養療法：骨格筋維持を目指す基礎研究	救急医学	助教	藤井 研介	600	1,400	600	0	0
MID-HSA の CED による薬剤送達をもたらす BNCT の治療効果向上の検証	脳神経外科学	助教（准）	金光 拓也	1,900	1,400	0	0	0
前方注視調節が頸椎矢状面アライメントに与える影響	整形外科	助教	藤城 高志	300	200	400	200	0
妊娠高血圧腎症・不育症に対する新たな治療～ヒト iPS 細胞を用いて～	産婦人科学	非常勤医師	大門 篤史	1,300	1,300	600	0	0
エクソソーム分析から解く子宮内膜症の特異的バイオマーカーの探索と治療介入への応用	産婦人科学	助教	古形 祐平	2,200	1,100	0	0	0
IgA 抗体応答性からみた 2 型糖尿病患者の唾液細菌叢研究	口腔外科学	助教	大森 実知	1,300	1,100	800	0	0
造血管腫瘍に対する化学療法による口腔粘膜炎と口腔細菌叢の関連	口腔外科学	非常勤医師	越智 文子	900	900	800	700	0
乳児期の沐浴・入浴時の危険を防ぐ母親と家族のためのデジタルコンテンツ教材の開発	看護学部看護学科	助教	近澤 幸	1,200	800	300	900	0
モバイル端末を用いた在宅呼吸リハビリテーション支援システムの開発	看護学部看護学科	助教	山本 暁生	800	1,200	700	600	0
認知機能低下予防のための睡眠障害に対する看護介入の長期的効果の検証	看護学部看護学科	講師	樋上 容子	400	600	500	0	0
（他機関より移管）								
OASA 発症機序の解明及び OA 選択基準の確立	口腔外科学	非常勤医師	松村 真由美	1,700	1,500	0	0	0

継続課題

※ 研究課題番号順
※ 金額は交付決定時のもの
※ 所属・職名は 2020 年 4 月 1 日現在のもの
（単位：千円）

■ 基盤研究 (B)

研究課題名	所属	職名	研究代表者名	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
アレキサンダー病新規モデルマウスを用いて明らかにするアストロサイトの役割	解剖学	教授	近藤 洋一	2,600	2,700	0	0	0
多臓器連関を基盤に骨脆弱性で脳心血管疾患予測性能を改善する男性骨粗鬆症 10 年追跡	衛生学・公衆衛生学Ⅰ・Ⅱ	教授	玉置 淳子	800	0	0	0	0
（他機関より移管）								
外傷特異的なメモリー制御性 T 細胞免疫応答の解明と臨床応用への基盤研究	救急医学	准教授	山川 一馬	4,100	3,400	0	0	0

■ 基盤研究 (C)

（単位：千円）

研究課題名	所属	職名	研究代表者名	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
癌細胞選択的破壊「礫素膀胱局所動注＋中性子照射」による新規膀胱温存療法	泌尿器科学	教授	東 治人	700	0	0	0	0
看護系大学に所属する若手教員の能力形成・向上に資する教育支援の検討	看護学部看護学科	准教授	土肥 美子	1,000	0	0	0	0
SLE 女性患者の BF の獲得を促進するアピアランスケアプログラムの構築	看護学部看護学科	准教授	カルデナス 暁東	600	0	0	0	0
ロマン主義的想像力の方法論史—18 世紀ニュートン・パラダイムの帰納主義と仮説思考	語学 (英語・独語)	講師	中村 仁紀	400	0	0	0	0
英語医学論文投稿のための総合的ライティング支援モデルの構築	語学 (英語・独語)	教授	藤枝 美穂	1,200	0	0	0	0
フェロモン認識・受容機構の進化的変遷から探る魚類の繁殖行動の多様性と進化	生物学	講師	橋口 康之	600	0	0	0	0

研究課題名	所属	職名	研究代表者名	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
キマーゼ特異的阻害効果を有する新規核酸製剤の応用	大学院 医学研究科	教授	高井 真司	1,100	0	0	0	0
自発的小胞放出を欠損するゼブラフィッシュを用いたシナプス伝達メカニズムの解明	生理学	教授	小野 富三人	1,200	0	0	0	0
「PET を用いた難治性・再発性腫瘍のホウ素濃度評価：BNCT の実用化促進」	関西 BNCT 共同 医療センター	特別職務担当 教員（講師）	磯橋 佳也子	600	0	0	0	0
新規超微量定量法を用いた超早産児血漿中脂肪酸組成の経時的変化と慢性肺疾患の関係	周産期センター （NICU）	准教授	荻原 享	900	0	0	0	0
肝細胞癌に対する GAS5 遺伝子を用いたマクロファージ療法	内科学Ⅱ	助教	大濱 日出子	600	0	0	0	0
DNA 修復異常で発症する遺伝性光線過敏症の診断センター構築と発展的展開	皮膚科学	教授	森脇 真一	1,100	0	0	0	0
劇症1型糖尿病の成因解明 ― CD300e の関与と新規ウイルス感染関連因子の同定	内科学Ⅰ	教授	今川 彰久	900	0	0	0	0
可視化モデルによるセロトニン神経の機能解析と小児腸管蠕動不全症への挑戦	一般・ 消化器外科学	講師	富山 英紀	1,000	0	0	0	0
エクソソーム分泌阻害と抗脈管新生に関わる遺伝子との複合治療による乳癌転移阻止	解剖学	准教授	柴田 雅朗	1,000	0	0	0	0
microRNA 創薬の実現～医工薬集約による難治性癌の克服～	一般・ 消化器外科学	教授	内山 和久	1,600	0	0	0	0
マルファン症候群患者由来 iPS 細胞から作製した血管細胞モデルでの治療薬の探索	胸部外科学	診療准教授	大門 雅広	600	0	0	0	0
重症出血性ショックに対する低血圧蘇生法：確立へ向けての基礎的研究	救急医学	教授	高須 朗	800	0	0	0	0
悪性脳腫瘍における PDT 効果予測ならびに悪性度及び分子生物学的特性予測マップ作成	脳神経外科学	講師	池田 直廉	900	0	0	0	0
エリブリンによる腫瘍免疫を介した難治性卵巣癌に対する新たな治療戦略	産婦人科学	講師（准）	藤原 聡枝	1,200	0	0	0	0
頭頸部がん硼素中性子捕捉療法の 18F-BPA-PET と治療効果の相関に関する研究	関西 BNCT 共同 医療センター	特別職務 担当教員 （専門教授）	粟飯原 輝人	700	0	0	0	0
網膜静脈閉塞症の病態解明：血管作動性因子の関与とその制御	眼科学	診療准教授	喜田 照代	900	600	0	0	0
網膜血管新生・リモデリングをつかさどる基底膜動態のライブ解析	解剖学	助教	二木 杉子	600	0	0	0	0
Muller cell cone の免疫組織学的検討	眼科学	教授	池田 恒彦	1,200	0	0	0	0
結晶構造から解く S. mutans 由来コラーゲン結合タンパク質の病原性メカニズム	解剖学	准教授	平田 あずみ	900	400	0	0	0
倫理的看護実践を可能にする組織の条件に関する質的・理論的研究	看護学部 看護学科	准教授	小林 道太郎	500	0	0	0	0
産婦の安全と夫も含めた満足な分娩のための3次元分娩アニメーションソフト開発と評価	看護学部 看護学科	教授	佐々木 綾子	900	0	0	0	0
ポリリン酸エステルが骨密度・骨強度に与える影響：骨粗鬆症の新規治療法確立に向けて	整形外科科学	講師	横田 淳司	300	0	0	0	0
仏教生死観を用いた生涯発達心理学の再考―ターミナルケアと死生観教育への応用	中山国際医学医療 交流センター	講師	近藤 恵	1,200	500	300	300	0
Pin(2) モノポール方程式と4次元トポロジー	数学	講師	中村 信裕	500	500	500	500	0
回転分子モーター蛋白質の駆動力伝達部位の弾性が回転速度・トルクに与える影響	物理学	准教授	古池 晶	700	800	0	0	0
世代を通した導入遺伝子の発現安定化を目指したDNAメチル化の人為的制御法の確立	生理学	講師（准）	山本 耕裕	800	1,000	0	0	0
ユビキチンリガーゼ Parkin による心筋収縮調節因子 PLN の制御機構	薬理学	助教	横江 俊一	1,100	1,400	0	0	0
がん分子標的治療薬起因性肝障害モデル樹立とメカニズム解析	臨床研究 センター	准教授	藤阪 保仁	800	900	0	0	0
遺伝コード拡張法を用いたアセチルコリン受容体の構造変化の研究	生理学	准教授	坂田 宗平	700	800	0	0	0
リンチ症候群発症機序の解明と創薬に向けたDNAミスマッチ修復蛋白質の構造機能解析	生化学	助教	福井 健二	700	800	0	0	0
翻訳制御の番人としての RyDEN による選択的ウイルスRNA抑制機構の解明	微生物学	講師	鈴木 陽一	1,700	800	0	0	0
細胞内分子の可逆的糖鎖修飾システムを標的とする新規癌診断と治療の開発	消化器内視鏡 センター	准教授	竹内 利寿	1,200	1,100	0	0	0
オートファジー制御因子 Beclin 1 を標的としたαシヌクレイン神経毒性緩和効果	内科学Ⅳ	教授	荒若 繁樹	1,200	600	0	0	0
膵臓癌特異ネオ抗原の同定と対応自己抗体スクリーニングの検査診断学的有用性の検証	研究支援 センター	准教授	中西 豊文	1,100	1,100	0	0	0
X 線の抗腫瘍効果に占める腫瘍血管損傷の寄与の硼素中性子捕獲反応を用いた定量的解析	B N C T 共同 臨床研究所	所長	小野 公二	1,200	900	0	0	0
母乳分泌におけるドコサヘキサエン酸と脂質制御核内受容体とのクロストーク機構の解明	医学教育 センター	専門教授	瀧谷 公隆	700	900	0	0	0
ヒト iPS 細胞を用いた炎症性腸疾患における疾患モデリングの確立と病態解明	内科学Ⅱ	講師	柿本 一城	1,100	1,300	0	0	0
心臓 MRI マルチマッピング・ストレイン法を用いた心筋症の組織性状に関する検討	内科学Ⅲ	講師	神崎 裕美子	300	600	0	0	0
IgG4 関連心血管病変の病態および予後に関する検討	内科学Ⅲ	教授	石坂 信和	1,300	700	0	0	0
CD10 + CD19 ー細胞による M2b 単球誘導機序の解明	内科学Ⅱ	診療准教授	朝井 章	900	1,100	0	0	0

研究課題名	所属	職名	研究代表者名	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
がん細胞ゼブラフィッシュ移植モデルによるアッセイ系の構築～膵癌克服への布石～	一般・ 消化器外科学	講師	朝隈 光弘	1,200	1,400	0	0	0
数理的解析による膵癌個別化治療の提案	一般・ 消化器外科学	非常勤講師	山本 君代	700	900	600	0	0
再灌流治療に伴用可能な心筋虚血領域標的ペプチドを用いた心筋保護治療法の開発	胸部外科学	講師（准）	神吉 佐智子	600	500	0	0	0
NAD+（ニコチンアミダデニンジヌクレオチド）による新規癌免疫療法の研究開発	泌尿器科学	講師	上原 博史	1,000	400	600	300	0
複合的癌免疫治療による子宮頸癌治療の革新的開発	産婦人科学	診療准教授	林 正美	1,000	1,500	0	0	0
臨床腫瘍組織直接移植モデルを利用した細胞外小胞による増殖・転移機構の解析	産婦人科学	講師（准）	田中 智人	1,000	1,000	0	0	0
顔面神経麻痺後遺症の予防ーエビデンスに基づく表情筋マッサージ開発を目指す基礎研究	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科学	専門教授	萩森 伸一	1,100	1,400	0	0	0
視神経傷害におけるタウオパチーの関与と、mTOR 活性の制御を介した治療効果の検討	眼科学	専門教授	奥 英弘	1,100	1,100	0	0	0
ストレプトコッカスのバイオフィルム形成阻害剤開発に向けた研究	生化学	教授	矢野 貴人	1,200	1,200	0	0	0
次世代の人工骨「積層造形チタン」への骨形成能最適化を目指した表面処理法の研究	口腔外科学	教授	植野 高章	600	200	0	0	0
高齢者の特性を考慮した下肢リンパ浮腫を軽減する継続可能な手技の開発	看護学部 看護学科	教授	赤澤 千春	500	800	0	0	0
死生観を育み看取り文化を創成する住民参画型看取りケアコミュニティのモデル開発	看護学部 看護学科	教授	真継 和子	800	700	600	0	0
（他機関より移管）								
チオプリン製剤服用妊婦より産まれた児の副作用とNUDT15 遺伝子多型の影響の調査	内科学Ⅱ	専門教授	中村 志郎	1,000	1,000	0	0	0
Miyajima 式腹部圧迫法の臨床応用 -PhaseⅢの拡大 -	看護学部 看護学科	教授	宮島 多映子	400	0	0	0	0

■ 若手研究

（単位：千円）

研究課題名	所属	職名	研究代表者名	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
児童の様子から教師が限局性学習障害と病態の把握を可能とするための疾患概念の確立	小児高次脳機能 研究所	特別職務担当 教員（助教）	福井 美保	800	0	0	0	0
ER ストレスプレコンディショニング法による NSAIDs 起因性小腸潰瘍治療戦略	消化器内視鏡 センター	特別職務担当 教員（講師）	小嶋 融一	800	0	0	0	0
急性冠症候群発症における流体力学的研究	内科学Ⅲ	助教	山内 洋平	300	0	0	0	0
改良型プロテオーム解析を用いた、乳癌ホルモン耐性機序の解明	一般・ 消化器外科学	非常勤講師	藤岡 大也	1,200	0	0	0	0
DLL3 を基軸とした消化管 NET の病態解明と新規創薬への試行	一般・ 消化器外科学	講師（准）	谷口 高平	1,300	0	0	0	0
スフィア形成法を駆使した膵癌幹細胞の機能解析と指標の確立	一般・ 消化器外科学	講師（准）	清水 徹之介	1,300	0	0	0	0
肩関節断裂に対する新しい治療法、上方関節包再建術の生体内治療メカニズムの解明	整形外科科学	助教	長谷川 彰彦	900	300	0	0	0
ヘッジホグ経路を介した去勢抵抗性前立腺癌メカニズムの解明	泌尿器科学	講師	伊夫貴 直和	1,100	0	0	0	0
難治性卵巣癌における EMT 制御因子である miRNA の網羅的解析と新規 DDS の開発	産婦人科学	非常勤医師	芦原 敬允	1,000	0	0	0	0
唾液腺癌における局所免疫環境とその病態意義の解明	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科学	講師	東野 正明	800	0	0	0	0
耳下腺癌の高頻度・顔面神経浸潤機構の解明	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科学	助教	綾仁 悠介	1,200	0	0	0	0
脂肪由来幹細胞と W9 ペプチドを用いた新たな骨再生治療の開発	形成外科学	講師	大槻 祐喜	300	500	0	0	0
三次救急の場における看護師の自殺未遂患者に対する態度形成の影響要因の探索と検証	看護学部 看護学科	准教授	瓜崎 貴雄	400	0	0	0	0
腎移植ドナー、レシピエントの潜在的支援ニーズを抽出するスクリーニングツールの開発	看護学部 看護学科	助教	大橋 尚弘	1,200	0	0	0	0
都市部の男性高齢者における介護予防活動を活用した地域のつながり強化に関する研究	看護学部 看護学科	助教	山埜 ふみ恵	100	0	0	0	0
設計した人工受容体と iPS 細胞を用いた重症筋無力症新規治療法開発に向けた基礎研究	生理学	助教	山下 愛美	1,400	0	0	0	0
ライソゾーム病における液泡型プロトン ATPase の病態的役割の解明	薬理学	助教	森原 啓文	1,000	1,000	0	0	0
性同一性障害の全ゲノム解析法 (GWAS) を用いた遺伝学的解明	神経精神医学	助教	木下 真也	1,200	0	0	0	0
lncRNA によるオリゴデンドロサイト分化の制御と再生医療への応用	解剖学	助教	井上 順治	1,000	1,000	0	0	0
消化器外科術後における細菌感染症の早期診断における新規バイオマーカーの開発	一般・ 消化器外科学	助教	今井 義朗	700	700	0	0	0
NASH 全容解明に向けたラットモデル解析とキマーゼ阻害剤効果の検証	一般・ 消化器外科学	非常勤講師	鱈淵 真介	1,000	700	0	0	0
運動療法鎮痛効果に対するキヌレン酸の役割～慢性痛に対する新たなアプローチ～	麻酔科学	講師	宮崎 信一郎	1,200	900	0	0	0

研究課題名	所属	職名	研究代表者名	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
がん性疼痛モデルにおけるキマーゼ阻害薬による鎮痛効果の検証	集中治療部	助教	北埜 学	1,200	0	0	0	0
乳酸代謝に着目した術後疼痛のメカニズムの解明と運動療法の最適化	麻酔科学	助教	藤原 淳	800	0	0	0	0
出血性ショックに対する fluid resuscitation の新しい戦略	麻酔科学	非常勤講師	三原 良介	600	900	0	0	0
泌尿器がんでの恒常的 DNA ダメージ負荷を利用した新規治療戦略の開発	泌尿器科学	講師	小村 和正	1,500	700	0	0	0
キマーゼを介した甲状腺眼症における眼窩内組織線維化の解析	眼科学	講師（准）	三村 真士	700	900	0	0	0
骨新生を有するチタン積層造形多孔体構造の解明	口腔外科学	助教	井上 和也	1,400	400	500	0	0
思春期・青年期1型糖尿病患者の身体感覚に着目した性差別支援プログラムの開発	看護学部 看護学科	准教授	山崎 歩	400	600	0	0	0
在宅看護ケアで活用できるリンパ浮腫評価モデルの開発	看護学部 看護学科	准教授	寺口 佐與子	700	300	0	0	0
運動はサルコペニアに先立って生じる神経筋シナプスの形態変化を抑制できるか	衛生学・ 公衆衛生学Ⅰ・Ⅱ	講師（准）	神谷 訓康	1,100	400	0	0	0

■ 研究活動スタート支援				(単位：千円)					
研究課題名	所属	職名	研究代表者名	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	
低出生体重児に発症する注意障害は正常産児 ADHD とは異なるのか？	小児科学	非常勤医師	利川 寛実	800	0	0	0	0	
中枢神経原発リンパ腫に対するホウ素中性子捕捉療法の橋渡し研究とプロトコール立案	脳神経外科学	非常勤医師	竹内 孝治	1,100	0	0	0	0	

■ 国際共同研究加速基金（国際共同研究強化（A））								（単位：千円）	
研究課題名	所属	職名	研究代表者名	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	
アルコール依存症患者の感染感受性に対する GAS5 遺伝子治療の効果	内科学Ⅱ	診療准教授	朝井 章	11,900	0	0	0	0	

2020 年度 戦略的基盤技術高度化支援事業（サポイン）および AMED ACT-MS 採択結果

支援事業名	テーマ名	研究体制	研究期間	補助金金額（予定額）
2020 年度 戦略的基盤技術 高度化支援事業 （サポイン）	「既存心臓人工弁尖材料の課題を自己組織化で克服する経編の応用」	大阪医科大学 根本 慎太郎 （胸部外科学 専門教授） 中小企業 福井経編興業（株）	2020年8月 ～2022年3月 2年間予定	●プロジェクト全体予算計画：47,268,200 円 （1 年目：41,446,870 円、2 年目：5,821,330 円） ●うち大阪医科大学研究費：2 年間 1,957,072 円 （直接経費 1,505,440 円、間接経費 451,632 円） ・1 年目：397,072 円 （直接経費 305,440 円、間接経費 91,632 円） ・2 年目：1,560,000 円 （直接経費 1,200,000 円、間接経費 360,000 円）
	「先天性心疾患に対する姑息手術成績向上のための埋め込み型人工血管流量装置の開発」	大阪医科大学 根本 慎太郎 （胸部外科学 専門教授） 中小企業 （株）東海メディカル プロダクツ	2020年8月 ～2022年3月 2年間予定	●プロジェクト全体予算計画：64,977,461 円 （1 年目：43,787,463 円、2 年目：21,189,998 円） ●うち大阪医科大学研究費：2 年間 6,130,800 円 （直接経費 4,716,000 円、間接経費 1,414,800 円） ・1 年目：1,840,800 円 （直接経費 1,416,000 円、間接経費 424,800 円） ・2 年目：4,290,000 円 （直接経費 3,300,000 円、間接経費 990,000 円）
	「アトピー性皮膚炎や肌荒れを緩和する機能性脂肪酸のスマート酵母を用いた生産・精製法の開発」	大阪医科大学 森脇 真一 （皮膚科学 教授） 中小企業 ヤエガキ醗酵技研(株) 地方独立行政法人 大阪産業技術研究所	2020年8月 ～2023年3月 3年間予定	●プロジェクト全体予算計画：95,831,800 円 （1 年目：29,962,500 円、2 年目：43,379,600 円、3 年目 22,489,700） ●うち大阪医科大学研究費：3 年間 20,145,500 円 （直接経費 15,455,000 円、間接経費 4,690,500 円） ・1 年目：3,464,500 円 （直接経費 2,665,000 円、間接経費 799,500 円） ・2 年目：10,088,000 円 （直接経費 7,760,000 円、間接経費 2,328,000 円） ・3 年目：6,593,000 円 （直接経費 5,030,000 円、間接経費 1,563,000 円）
産学連携医療イノベーション創出プログラム セットアップスキーム【ACT－MS】	「自己組織化ハイブリッドシートによる「生きてる」心臓弁尖の開発」	大阪医科大学 根本 慎太郎 （胸部外科学 専門教授） セットアップ企業 帝人（株）	2020年8月 ～2022年3月 2年間予定	●プロジェクト全体予算計画：大阪医科大学研究費 2 年間 35,465,000 円 （1 年目：19,000,000 円、2 年目：16,465,000 円） ・1 年目：19,000,000 円 （直接経費 14,616,000 円、間接経費 4,384,000 円） ・2 年目：16,465,000 円 （直接経費 12,666,000 円、間接経費 3,799,000 円）



大阪医大のチームの一員である
各部署をご紹介します。

▶産学官連携推進室

研究成果の実用化で 社会貢献を目指す！



大学における様々な研究成果を“医療へ実用化する”ことを使命とする集団が産学官連携推進室として研究支援センター内に新たに設置されました。この実用化とはすなわち事業化と同義であるため、北摂地域に留まらない全国的な企業との開発協力や省庁の資金・制度的バックアップを積極的に求める必要があります。また単に“私の研究は文献上はじめて！”を主張するのではなく、産業上の実施権を獲得するための知的財産の確保が必須です。

医療実用化の可能性のある優れた研究成果を焦って学会や論文等で発表してしまい、時間的制約と必要な実験データがない状態で特許申請にも漕ぎつけない、事業化（産業化）に繋がらないという残念なケースが日常的に起こっています。このような状況では、もちろん企業も省庁も相手にはしてくれません。教員からは「研究成果をどのように世の中に出していくか」、「誰に相談したらよいかわからない」といった声が沢山聞かれます。

当推進室では、有機的に結びつ

いた「産学官連携セクション」と「知的財産セクション」の2つの相談窓口を設けています。更に上部にある推進会議では「研究成果の実用化へのステップ」において各研究がどの段階に位置するかを明確にし、スタートアップ支援、研究費獲得支援、企業リエゾン支援（マッチングと共同研究契約）、特許化支援、AMED や経産省の大型研究開発資金獲得支援、そして事業化支援等のレベルや段階に合わせた伴走の選択がなされ、研究者にフィードバックされます。成功経験豊富な URA とコーディネーターが真剣に関わる体制が出来上がりました。血が通う現場、戦う

集団がモットーです。

現在までにアドホックで進んでいたバラバラの大学活動を本推進室に一本化し再出発としました。おとぎ話で終わらせない、研究者も世の中も皆が喜ぶ“ストーリー”を組織的に作っていきたいと考えています。今後は学内外に上記の活動を広めながら、本学からの一つでも多くの実用化を目指していきます。

究極の大学の使命である“研究成果の実用化で社会貢献したい”と思った瞬間が吉日です。ご連絡ください。

文責：産学官連携推進室
課長補佐 杉岡 弘敏



新型コロナウイルス 感染症に対するご支援の御礼

病院長 南 敏明



▼ジャニーズ事務所『Smile Up! Project』から、
メッセージカードとともに、防護服とマスクが届きました。

2019年11月、中国で発生した新型コロナウイルス感染症は、2020年3月、日本全国に感染が拡大し、4月16日には「緊急事態宣言」が発出され、三密を避けることに加え、外出自粛が強く求められました。大阪医科大学病院は、大阪府入院フォローアップセンターからの要請に基づき新型コロナウイルス感染症患者を受け入れ、軽症中等症患者15名と重症患者6名の入院、また病院とは完全に独立した歴史資料館内の診療ブースで陽性患者及び疑い患者155名の外来診察を行いました。万全の感染対策の下で懸命の治療を行い、お陰で患者さんや医療従事者に一人の院内感染者も出さず、5月18日には全員が退院され、以降感染者ゼロの状況を継続しています。5月21日、大阪府が「緊急事態宣言」の区域から解除され、5月25日には、全国的に緊急事態が終了した旨宣言され、少しずつ日常生活が戻ってきました。

今でこそマスクは国内メーカーの参入が相次ぎ、供給量は徐々に増えているものの、緊急事態宣言前後は、マスクを始めとした医療資源だけではなくトイレトペーパーまでも品薄状態に陥りました。多くの病院で医療資源が欠乏し、外来、入院、手術制限などが余儀なくされましたが、本院では、行政・企業・団体・個人の皆さまから多数のご支援を賜ったこと、医療スタッフ・法人の皆さま・全職員が一丸となって対応いただいたお陰で、手術などの制限はなく無事に第一波を乗り切ることができました。ひとえに皆さまのお力添えのお陰の賜物と感謝申し上げます。

本院では院内感染防御のため、面会禁止といたしました。NICU・GCU（高度な医療処置を必要とする赤ちゃんが入院する病棟）では、看護師のアイデアで、病棟スタッフが赤ちゃんの様子を毎日15秒程度撮影し、家族にその動画を送信するサービスを行いました。また、本院の精神神経科医師・精神看護専門看護師・公認心理師などからなる「COVID-19こころのケアチーム」が活動を行いました。これらの活動は、医療資源以外に賜ったバラの花・お弁当・お菓子や励ましの手紙などと相まって、身体の健康だけでなく心の健康も取り戻すためのサポートとなりました。

今後は、ステイホーム期間中になん患者や循環器疾患患者が重症化した経験を踏まえ、本院が三島医療圏の最後の砦であるとの自負と特定機能病院であることから、患者さんを24時間、迅速に受け入れていきたいと思ひます。宜しく願い申し上げます。

支援物資 ご提供への御礼

看護部長 中山サツキ

このたびの新型コロナウイルス感染症への対応にあたりまして、多くの企業様や個人の方々より、マスクやガウンなどの防護具、お菓子や飲み物に至るまでさまざまな支援物資のご寄贈を頂きました。皆さまのご支援、誠にありがとうございました。また、本学の教職員や学生、高槻中学・高校の教員・学生の方々からは一ヶ月以上にわたって、ビニール袋を使った手作りエプロンを合計17,000枚以上も頂きました。毎日のように届くエプロンは、感染リスクと向かい合う私たちの不安をやわらげ、「今日も頑張ろう!」という意欲をかきたててくれる大きな励ましになりました。皆さまの温かいお心遣いに改めて深く感謝いたします。新型コロナウイルス感染症に関しましては、第二波の感染者推移が憂慮されており、まだまだ予断を許さない状況が続いております。今後も引き続き感染管理を厳重に行い、気をゆるめることなく感染防止対策を継続してまいりたいと思っております。今後とも皆さまのお力添えを宜しくお願いいたします。ご支援、ご協力頂きました全ての皆さまに重ねて御礼申し上げます。



▲ビニール袋の手作りエプロン

ありがとう
つづきます

手書きのメッセージが添えられた お菓子を無償提供いただきました

社会福祉法人わかさ福祉会・わかさ障害者作業所様より、手書きのメッセージが添えられたお菓子を無償提供いただきました。心温まるご支援、誠にありがとうございました。



新型コロナウイルス 宿泊療養支援ナースの体験を通して

看護部 四方早子

今回、大阪府から新型コロナウイルス感染症対応のための宿泊施設(軽症者)への派遣依頼を受け4月29日～5月6日、7月14日～19日の2回にわたり、医療チームの一員として新型コロナウイルス感染症に罹患した患者さんの健康管理業務に従事するという貴重な体験の機会を得ました。勤務は日当直(9時から翌朝9時までの24時間)で、業務の内容は1回目の派遣時は入所者の健康チェック、PCR検体対応等を行うことが主でした。2回目は入所時の説明、アナメ聴取、健康チェック、医師によるオンライン診療の援助、退所に向けた指導等を行いました。2回とも入所者の方とのコミュニケーションは、全てiPadを用いて行う体制になっていました。病院とは異なり施設には医師が不在のため、入所者の病状のトリアージも看護師が実施し、入所者の状態によっては病院への搬送を行うこともありました。入所者への対応においては、感染管理の徹底への配慮も必須ではありますが、心身両面への支援が非常に重要であることも再認識することができました。

今後は、この経験を踏まえ病院の職員が一丸となって院内クラスターを発生させないように十分留意し、患者さんが安心して医療を受けることができるよう感染管理を徹底していきたいと思ひます。



海外留学

泌尿生殖・発達医学講座
泌尿器科学教室
前之園 良一 助教(准)

今年3月にアメリカより帰国しました2012年卒の前之園です。

私は2018年の3月に渡米をし、Harvard Medical School, Brigham and Women's Hospital, Division of Transplant Surgery (Tullius lab)に約2年間在籍しておりました。ラボを主催しているPrincipal Investigator(PI)であるProfessor. Stefan G. Tulliusは、Department of SurgeryのChiefであり世界的にも有名であり、東 治人教授とも深い親交のある人物です。

Brigham and Women's Hospital (当時のPeter Bent Brigham Hospital)は1954年にDr. Joseph E. Murrayによる一卵性双生児間の生体腎移植、1990年にノーベル生理学・医学賞を受賞した、移植に携わっている人間ならば一度は訪れてみたい場所。そんな場所に聖地巡礼することが出来たのは非常にラッキーな経験でした。

私は独身ですので一人での海外生活に当初は心底不安に思っていました。しかし実際にBostonへ来て良かったことが主に3つ程ありました。一つ目は研究職・他職種の知り合いが増えた事です。日本人コミュニティではそれぞれの研究テーマや時には雑談をしていましたが、私は渡米して半年くらいから参加するようになりました。正直最初は周りが何について話しているか何が今の研究トピックスなのか...こまめに通ったおかげもあってか話が少し分かるようになってきたと同時に、知り合いも少しずつ増えてきたというのは私の中の大きな変化の一つだと思っています。

二つ目は研究の先端を肌で体感出来た事。膨大なアメリカの臨床移植データを扱う機会やその解析のアドバイスをHarvard Medical SchoolのBiostatisticsのProfessor(教科書を書いているような人物)と一対一で話し合う機会、コラボレーター先のMayo Clinicでマウスの心臓移植を行う機会や一流の科学者の公演を間近で聞きその風を感じる等、アメリカならではの経験だと思っています。

三つ目は、学生時代剣道部であった私にとっては、ラッキーなことに「剣道」をやっている場所があることでした。ある医局の某先輩から渡米前に「お前はBostonの寒い冬に孤独死するから何か趣味を持っていけ」とアドバイスを受けていましたが、たまたま下宿とラボの間に剣道をやっている所を発見し、そこで2年間お世話になりました。剣道には「交剣知愛」という言葉があります。



Harvard Medical School前にて

恩師によく交剣知愛を説かれていた記憶がありますが、当時は実感に乏しくここに来てコミュニケーションが十分にとれない状況でふとこの言葉が頭をよぎりました。

2年の留学は自分にとって非常に有意義な経験であったと思います。研究の機会、有名雑誌に名前が載る機会、Harvard Medical Schoolのみならず一流施設であるMayo Clinicでのデモンストレーション・オペの機会等、日本に留まっているだけでは経験できないことばかりでした。実際にBostonには日本の医学部の学生さんも短期留学や休学を利用して来る人達もたくさんいます。一度しかない人生ですので、海外留学への一步を踏み出すのも大変な労力だと思いますが、機会があるのであれば若い方々は是非トライをしてみてくださいはいかがでしょうか。きっとそのステップステップが宝物になると思います。



Mayo Clinic前にて



Dr. Stefan G. TulliusとDr. Edgar L. Milfordと

海外留学

～ US, NY で過ごした三年～

泌尿生殖・発達医学講座
泌尿器科学教室
吉川 勇希 助教(准)

2017年4月から2020年3月までの3年間、アメリカ、ニューヨーク、マンハッタンにあるUpper EastにあるMemorial Sloan Kettering Cancer Center (Zuckerman Research Center)で基礎研究をさせて頂きました。

Medical Oncologistの権威であるPhilip Kantoff氏がPrincipal Investigatorを務めるその研究室では「前立腺癌に対する遺伝子治療」を進めております。氏は2016年にボストン、Harvard Medical Schoolにおける主要関連医療機関であるDana-Farber Cancer Instituteから拠点をニューヨークに移されました。ニューヨークの研究室には私を含めて5-6人のMDとPhDがいて、ボストンに2人、ドイツに1人、チームマネージャーとして働く人材がおり、10人前後で日夜研究を続けていました。

私の研究テーマを直接指導して下さっていたのはDana Farberに籍を置くChristopher Sweeney氏で、彼はCHAARTEDという大規模臨床研究を行い、前立腺癌治療の常識を大きく覆した論文を2015年に発表した人物です。

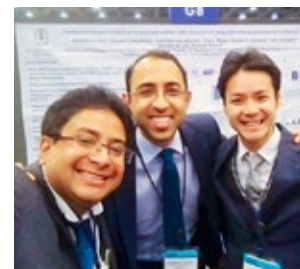
滞在中に、同僚の研究に様々な形で貢献する事ができ、共著者として4本の論文を発表する事ができました。自身が主導した研究成果については現在も進行中で、年内に発表できたらと考えております。また、幾つかの学会やカンファレンス等にも参加し、精力的で充実した研究生活を過ごす事ができました。

少し、海外留学とはどういう生活を送るのかという事についてお話したいと思います。

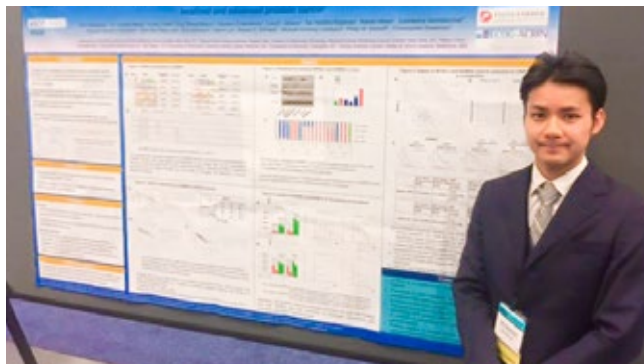
「人種のるつぼ」とまで言われるニューヨークは多種多様な人種と、その文化が複合し、交錯して構成された特殊な街です。我々がこの小さな島国で培ってきた常識は非常識で、非常識は常識に変わる事もある不思議な空間です。数多くの日本人が在米しており、NY Cityだけでも3万人以上の方が住んでいらっしゃいます。また、マンハッタンと周辺のア일랜드には数多くの店があります。



2017 AUA / Boston



2020 GU ASCO / San Francisco



2020 GU ASCO / San Francisco

その中には日本食レストランや日系スーパー、本屋、雑貨屋等々、場所を選べば日本と変わらない生活を過ごす事が可能です。日系ではありませんがスターバックスは数ブロックに1つあるのではないかとくらいの勢いです。

私が留学に行きたいと思っていたのは、新しい世界に触れ、多くの人がした事のない経験をし、見聞を広げたいという想いがあったからです。事実、現地の人々と触れ合い感じたのは、仕事に対する姿勢や飲食店での過ごし方、休日の使い方、他者との接し方、どこを取っても日本で過ごして培った常識とはかけ離れていると感じました。しかし、それを楽しいと思えるようになるまで多くの時間は掛かりませんでした。

慣れてきたら「言語と母国が違う。そして、考え方が少しばかり違う」というだけで、日本での生活と大きく隔たれたものではないと理解する事ができました。当然の事を話しているように思えるかもしれませんが、最初はそんな簡単な事実にさえ気付く事ができませんでした。多くの概念を受け入れ、各国の文化に触れるうちに数多くの事を吸収し、自分の中で統合する事ができました。これは自身が今後の人生を過ごす中での礎となると感じております。

海外留学の良かったところを挙げるには、この数百字程度では到底収め切れません。もし、留学に興味がある方、迷っている方、もしくはそれ程には興味が無い方でも、機会があったら勇気を出して飛び込んでみては如何でしょうか。思いもよらなかったような発見と、今までの自分では味わう事のできなかった黄金の経験を得る事ができると思います。

基礎研究に携わっていた経験を生かし、現在勤めている病院でも新しくテーマを決めて実験、研究を継続しております。今までに培った技術や知識と経験を生かすのは勿論、同じ分野、異なった分野で研鑽を重ねる人達と築いた関係を保ちながら、社会に貢献できるような仕事を続けたいと考えております。

たった3年間でしたが、ニューヨークで過ごした期間には私の中で何事にも代え難い素晴らしい時間でした。

最後になりますが、留学以前、留学中の私を支えて下さった皆様、誠に有難う御座いました。この場を借りて、御礼を申し上げます。



高槻中・高だより

キャンパス整備完成式を挙行

2014年の学校法人大阪医科大学と学校法人高槻高等学校の法人合併以降、次世代教育を見据えたキャンパス整備計画の検討が進められ、2015年に「志を育む空間」をコンセプトとした基本計画の策定並びに基本設計及び実施設計を行い、2016年3月の地鎮祭を経て工事がスタートしました。2017年3月の第Ⅰ期工事（高校教室及び特別教室）竣工、2018年7月の第Ⅱ期工事（図書館・講堂）竣工を経て、2020年3月、第Ⅲ期工事（本館）が竣工し、一連のキャンパス整備がほぼ終わったことから、3月30日に完成式を挙行しました。

本館3階・コミュニティスクエアにて野見神社神職により神事式を執り行ったあと、完成式に移り、植木實理事長による式辞、工藤剛校長による謝辞のあと、設計監理にあられた株式会社類設計室取締役副社長の阿部絃様、施工にあられた清水建設株式会社取締役副社長関西支店長の池田耕二様に植木理事長から感謝状を進呈し、両社から記念品を贈呈いただきました。

本館1階エントランスに場所を移して、植木理事長、濱岡純治理事長補佐・副理事長、佐野浩一副理事長、岩井一常務理事、工藤校長、上田武司保護者会会長及び子安増生親友会（同窓会）会長によるテープカットを行い、ご出席者全員が完成直後の校舎を内見されました。

学校創立80周年の節目に教育環境が整い、施設・設備を最大限に活用して、教育活動のさらなる充実を図ってまいります。

皆さまには長期にわたる工事によりご不便、ご迷惑をおかけいたしましたことお詫び申し上げます。



新型コロナウイルス感染症拡大防止対応の経過について

本校では2月29日に、出席者限定・時間短縮・換気・手指消毒・マスク着用等の対策を講じて高校卒業式を挙行。その後、大阪府の協力要請のもと、3月1日から春休みまでを臨時休校としました。途中、学年末考査2日間、3学期終業式、中学卒業式を行い、2019年度を終えました。

ご来賓の列席を割愛して中学と高校の入学式を挙行した4月7日夜に政府の緊急事態宣言が出され、延長を経て引き続き5月31日まで臨時休校としました。

この間、Zoomを利用した双方向型のオンライン授業を実施しました。本校では数年前からICT活用教育を実践しており、生徒はiPad等のデバイスを所有し、学校・自宅にWi-Fi環境が整っていることから、オンライン授業実施にあたりハード面での障壁はほとんどありませんでしたが、初めての経験で悪戦苦闘しながら授業やそのサポートに教職員が懸命に取り組み、また生徒及び保護者の皆さまの協力があって学びを継続することができました。

6月1日に1学期始業式を挙行し、その後4週間かけて段階的に教育活動を再開しました。夏期休業は8月1日から16日に短縮し5月に予定していた体育祭は10月に実施予定です。



	日	月	火	水	木	金	土
2月	23	24	25	26	27	28	29
	1	2	3	4	5	6	7
3月	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31	1	2	3	4
4月	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	1	2
5月	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
6月	31	1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27



大阪薬大だより

前期授業と新型コロナ対策について

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、本学では前期中の講義を全てオンデマンド授業とすることを決定し、実習については6月に入ってから開始、前期定期試験も対面での実施は見送り、オンライン試験、レポート課題などへ変更することとなりました。

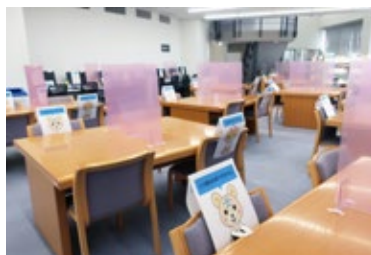
前期中の対応が決まったとはいえ、学生の登校制限や自習室の閉鎖、クラブ活動の禁止、イベントの中止等、活気ある本来のキャンパスの姿に戻るには、まだまだ時間を要する見込みです。

私たちは当面の間、コロナと共存していかなくてはなりません。本学でも学内の随所にアルコール消毒液を設置、事務局カウンターには飛沫防止パネルを設置、食堂や図書館の座席を間引くなど、3密回避を念頭に置いた対策を実施しています。

うるさいくらいに賑やかだった学生ラウンジが静まりかえっていると、早くあの日常が戻って欲しいと切に願う今日この頃です。



座席を減らした学生ラウンジ



図書館の閲覧席



注意喚起を促す図書館入口のサイネージ

大阪薬科大学薬用植物園誌上観覧会

新型コロナウイルス感染症拡大により、緊急事態宣言が発令されたため、本学においても入学式をはじめとするイベントが次々と中止となり、ついには長期間、休校を余儀なくされました。学生が登校しなくなったひっそりとしたキャンパス。それでも、季節は確実に巡り、本学の誇る薬用植物園では植物は芽吹き、花を咲かせ、美しさを競い合っていました。

本学薬用植物園は800種以上の薬用植物を保有・栽培している実物体験型の自然博物館です。園内の薬用植物は4～6月にかけて見頃となり、様々な花が咲き誇り、新緑の眩しい季節なのですが、今年は残念ながら見学会も中止となり、それらを見ていただくことが叶いませんでした。

そこで、今回はこの誌上をお借りし、「誌上観覧会」として園内の薬用植物たちを披露させていただきます。誌上ではその美しさを堪能していただくのに限界がありますが、ここでは5月に見頃を迎えた「シャクヤク」と「ボタン」の紹介をします。どちらも聞き馴染みのある花だと思いますが、満開の花の写真で心を癒やしていただくとともに、「こんな効能があるんだ」と知っていただければ幸いです。

そこで、今回はこの誌上をお借りし、「誌上観覧会」として園内の薬用植物たちを披露させていただきます。



本学薬用植物園入口



標本園



シャクヤク（ボタン科）
学名：Paeonia lactiflora Pall.
根：シャクヤク（芍薬）（局方収載）
鎮痛、鎮痙、鎮静作用など
ペオニフロリン、アルビフロリン
当帰芍薬散、芍薬甘草湯、葛根湯、十全大補湯、小青竜湯、防風通聖散など

中国北部原産と考えられる、多年生の草本類で5月ごろに開花する。一般的には観賞用に品種改良されたものをよく目にする。薬用にするには薬用種の花を咲かせないように摘花を行い、根の肥大化を促進させる。



ボタン（ボタン科）
学名：Paeonia suffruticosa Andrews
根皮：ボタン皮（牡丹皮）（局方収載）
駆瘀血、抗炎症、鎮痛作用など
ペオノール、ペオノシド、ペオノリド、ペオニフロリン
加味逍遙散、桂枝茯苓丸、温経湯など

中国西北部原産で落葉の木本類で4～5月ごろに開花する。園芸品種が多く出回るが、それらは根が細くて弱い。そのため通常シャクヤクに接ぎ木されるのでボタン皮としては利用できない。

大阪医科大学 寄付事業活動について

寄付報告

2019 年 12 月 1 日から 2020 年 5 月 31 日までの間にお申込みをいただきました方々のご芳名を掲載させていただきます感謝の意を表します。また、本学募金 Web サイトにもご芳名を掲げております。
※お名前の公表を希望されない方につきましては、掲載しておりません。

■大阪医科大学創立 100 周年記念事業募金

募 金 目 的	大学病院新本館建築に係る資金の一部、並びに学生支援体制の充実を図る
募金目標額	10 億円
募 集 期 間	2018 年 10 月～ 2027 年 3 月
金 額	個人 1 口 1 万円、法人 1 口 10 万円
顕 彰	銘板にご芳名をしるし、未永く顕彰いたします 個人様 5 万円以上 法人・団体様 50 万円以上
特 典	個人様 10 万円以上、法人様 50 万円以上をいただいた方は、健康科学クリニックの人間ドック（基本コース）1 回分の無料健診券を進呈します

●池田 義人 ●磯田 洋三 ●岩崎 勝義 ●後山 尚久 ●岡本 富士郎 ●小関 房子 ●鏡山 博行 ●喜田 昌司
●北川 浩 ●黒田 実紗子 ●河野 公一 ●酒井 敏男 ●山藤 法子 ●斯波 徳高 ●杉田 玄白 ●田中 和子
●田中 清子 ●田中 陽子 ●田淵 潤 ●田村 健司 ●寺川 純一 ●堂坂 忠弘 ●中江 新 ●中村 裕彦
●中村 正巳 ●濱 直 ●濱岡 純治 ●藤本 五百枝 ●古屋 紳子 ●堀口 泰輔 ●峰晴 昭仁 ●見山 昌一
●森川 渉 ●森嶋 芳子 ●森山 道夫 ●安田 稔人 ●山口 一夫 ●吉永 花子
●浅海電気株式会社 ●医療法人庸愛会富田町病院 ●株式会社入谷商会 ●株式会社増田医科器械
●協栄ビル管理株式会社 ●コスモ建物管理株式会社 ●小西医療器株式会社 ●コフジ物流株式会社
●ワタキューセイモア株式会社

（五十音順・敬称略）

■一般ご寄付

●泊 祐子 ●大阪医科大学医学部 PA 会 ●ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社 （敬称略）

◎税控除について

税額控除の場合	所得控除の場合
所得金額（年収）300 万円の方が 1 万円を寄附した場合、 税率に関係なく、所得税額から 3,200 円が控除されます！ 所得金額 (年収) − 諸控除 (扶養控除等) × 税率 5% 10% 20% 23% 33% 40% = 所得金額 (寄附金額−2,000 円) ×40% 税率に関係なく 8,000×40% =3,200 円を控除 1.寄附者の所得金額(年収)を確認する 2.所得金額(年収)から諸控除を引く(これを課税所得といいます) 3.課税所得から税率を確認し、乗ずる(これが所得税額となります) 4.所得税額から寄附にかかる税額控除(※)を引く(これが支払う税金の額になります) ※4の控除額の計算式は、[(寄附金額−2,000円(適用下限額))]×40%(控除率)]です。	所得金額（年収）300 万円の方が 1 万円を寄附した場合、 400 円が控除されます。 10,000−2,000 =8,000 円 − 諸控除 (扶養控除等) 寄附金額 −2,000 円 × 税率 5% 10% 20% 23% 33% 40% = 所得金額 寄附金控除 税率は(平均的な世帯の諸控除額を想定) 5% 8,000×5% =400 円を控除 1.寄附者の所得金額(年収)を確認する 2.所得金額(年収)から諸控除(※)を引く(これを課税所得といいます) 3.課税所得から税率を確認し、乗ずる(これが所得税額になり、支払う税金の額になります) ※2の諸控除には寄附金控除も含まれており、[(寄附金額−2,000円(適用下限額))]×税率が寄附金控除として所得金額(年収)から引かれています。

●個人住民税の取り扱い

寄付者様が個人の方で、お住まいの都道府県・市区町村が、条例で本学を寄付金税額控除の対象として指定している場合、総所得金額等の 30% を上限とする寄付金額について、下記の通り翌年の個人住民税額から控除されます。

- ・都道府県が指定した寄付金 〔寄付金額− 2 千円〕 × 4% に相当する額
- ・市区町村が指定した寄付金 〔寄付金額− 2 千円〕 × 6% に相当する額

※都道府県・市区町村の双方が指定している場合、10% となります。

※文部科学省ホームページより

■大阪医科大学基金

目 的	本学の教育・研究の一層の充実やインフラ整備を図るため、財務基盤の強化に資する
募金目標額	50 億円
金 額	1 口 1 万円
顕 彰	銘板にご芳名をしるし、未永く顕彰いたします 個人様 5 万円以上 法人・団体様 50 万円以上

●朝日 通雄 ●井口 健 ●石川 俊明 ●植田 政嗣 ●植野 高章 ●臼田 寛 ●大槻 勝紀 ●大野 浩二
●大野 博司 ●奥田 準二 ●柏 智子 ●柏 祐紀夫 ●金森 ひろ子 ●木村 正士 ●小牟田 美幸 ●佐々木 香
●佐野 浩一 ●澤村 律子 ●袖岡 秀幸 ●高井 七重 ●田中 和子 ●田中 清子 ●田中 陽子 ●寺井 陽彦
●西本 泰久 ●西山 裕子 ●藤岡 重和 ●南 敏明 ●森本 純司 ●守本 俊子 ●森本 真佐子 ●安田 稔人
●米田 博 ●医療法人毅峰会吉田病院 ●大阪電材株式会社 （敬称略）

■教育環境整備のための募金

目 的	医学部教育環境整備
募金目標額	2 億円
募 集 期 間	2020 年 4 月 1 日～ 2021 年 3 月 31 日
金 額	1 口 300 万円
顕 彰	銘板にご芳名をしるし、未永く顕彰いたします

●竹内 素志 （敬称略）

【各種募金経過報告】 2020 年 5 月末日現在

募金名	件数	募金額（円）
大阪医科大学創立 100 周年記念事業募金	517	184,691,667
大阪医科大学基金	954	108,736,200
教育環境整備のための募金(※2019 年度)	20	45,600,010

寄付者からのメッセージ

創立 100 周年記念事業募金には、患者さんをはじめご寄付とともに病院スタッフへの感謝の気持ちが添えられています。

入院中に大変お世話になり、感謝の気持ちとしまして、些少ですが病院の建て替えにお役立ていただけたら幸いです。(70 代男性)

諦めていた手術をしてくださり、お蔭様で日々元気に過ごしております。お世話になりました皆さまに感謝し、病院新本館の完成まで生きていたいと思い寄付いたします。(60 代男性)

長年お世話になりありがとうございました。病院新本館の完成を楽しみにしています。 （元職員）

「法人パートナーズ」制度のお知らせ

本学法人の教育、研究、医療の実践に対象基準を満たすご支援をいただきました皆さまには、本学法人はその方々の健康と医療に関するパートナーとなり、本大学病院への優先的なご受診や入院、人間ドックの無料受診券の交付、各種健康相談などを行い、生涯寄り添っていく制度です。
詳細は、募金推進本部へお問い合わせください。

学校法人大阪医科薬科大学・募金推進本部

〒 569-8686 大阪府高槻市大学町 2-7
TEL：072-684-7243 ／ FAX：072-681-3723
Email：kikin@osaka-med.ac.jp

水彩画と私

— ひまわり —

絵・文 名誉教授 富士原 彰



夏の風物詩

ひまわりに魅せられて

1.5メートルにも達する太く直立した茎のてっぺんに、太陽に向かってお辞儀するかのように咲く、径10〜40cmの大形の炎のような黄色い花。眩しい炎天下に開いたさまはいかにも夏らしい。

ひまわり、漢字では向日葵と書く。北アメリカ原産のキク科の植物である。スペイン、欧州を経て、いろんな国に観賞用としてもたらされた。日本には中国から17世紀の江戸時代に渡来している。その植物の容姿や性質から、英語名はsunflower (sun: 太陽、flower: 花)、フランス語 tournesol (tourner: 回る、sol: 太陽)、スペイン語 girasol (gira: 回す、sol: 太陽)と、日本では、この花が持つ向日性の向日と太陽に向かって成長する植物を意味する「葵」を組み合わせて「ひまわり」と呼んだ。

太陽の動きにつれて回ると言われているが、実際は成長期の間だけで、完全に開いた花は東を向いてほとんど動かない。ひまわり畑で一斉に、東に何千本、何万本がその頭花を向けているさまは異様に感じる。

夏の風物詩として、詩を作りたくなるような感動を呼び起こす花として知られているが、時には、大きすぎ下品な花と評せられ、見方によっていろんな印象を抱かせる花である。

病院ボランティアグループ ふれあい

病院ボランティアグループ「ふれあい」は患者さん志向のヒューマンサービスを目指しています。
コロナ禍により2月から一部のボランティア活動以外、自粛しております。
通常の活動は以下のものです。これからも皆さまのあたかいご支援をお願いします。

12種類の活動を展開

■正面玄関

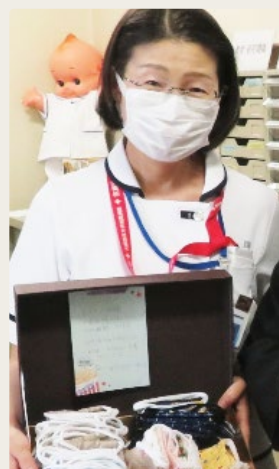
- ・初診案内・患者さん誘導ボランティア

■病棟

- ・患者さん図書ボランティア
- ・季節の飾りボランティア
- ・縫製ボランティア
- ・小児科病棟ボランティア
(読み聞かせ、バルーンアート、ピアノ演奏会)
- ・車椅子の空気圧定期点検ボランティア

■その他

- ・エコキャップボランティア
- ・グリーンボランティア
- ・折り紙ボランティア
(入院患者さんへの行事食用)
- ・通信ボランティア
- ・ふれあい作品展示コーナーへの展示
- ・収集ボランティア(古切手)



手作りマスク



ふれあい花壇



行事食飾り「七夕」



季節の飾り



千匹カエル



ふれあい花壇

7月1日現在

病院ボランティアグループ「ふれあい」は活動自粛中です。戸外活動のグリーンボランティアとホーム活動ができる飾り、縫製グループの皆さまが活動をしております。御自宅でマスクや、携帯ブースの飾り、七夕の日の病院食に趣を添える飾りなどを作成していただきました。

ボランティア支援室



大阪医科大学
OSAKA MEDICAL COLLEGE

大阪医科大学

<https://www.osaka-med.ac.jp>

〒569-8686 大阪府高槻市大学町2番7号
TEL: 072-683-1221 (代表)

【学 部】

- 医学部医学科
- 看護学部看護学科

【大学院】

- 医学研究科 (医科学専攻修士課程)
- 医学研究科 (医学専攻博士課程)
- 看護学研究科 (看護学専攻 [博士前期課程])
- 看護学研究科 (看護学専攻 [博士後期課程])

大阪薬科大学

<https://www.oups.ac.jp>

〒569-1094 大阪府高槻市奈佐原4丁目20番1号 TEL: 072-690-1000 (代表)

【学 部】 ● 薬学部薬学科 (6 年制) ● 薬学部薬科学科 (4 年制)

【大学院】 ● 薬学研究科 (薬学専攻 [博士課程・4 年制])
● 薬学研究科 (薬科学専攻 [博士前期課程・2 年制])
● 薬学研究科 (薬科学専攻 [博士後期課程・3 年制])

高槻中学校・高槻高等学校

<https://www.takatsuki.ed.jp>

〒569-8505 大阪府高槻市沢良木町2番5号 TEL: 072-671-0001 (代表)

【6 年制完全一貫教育】 ● 中学校:《GLコース》(1年・2年・3年)《GSコース》《GAコース》(3年)
● 高等学校:全日制課程普通科《GLコース》《GSコース》《GAコース》

【文 部 科 学 省 指 定】 ● スーパーサイエンスハイスクール (SSH)
● スーパーグローバルハイスクール (SGH)